

ママでありながら配信  
者にもなりまして

八月朔日

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

株式会社ワールドクリエイト、今勢いに乗つてゐるvtuberをかかえるところから3期生のキャラデザの依頼を受けた私が気づけばvtuberとしてデビューすることになった話。

なろうにも投稿中。

特殊タグ表記はハーメルンのみです・・・話数重ねたら上達するはず

# 目次

1	どうしてこうなった	1	1	体づくりと助け船	89
2	3期生の皆は強烈なよう	8	1	その後の話とかいろいろ	102
3	娘には愛情をささげましょう	15	1	朱音さんと進捗会議	109
4	これ以上濃くなるのはやめてもろて	25	1	とある昼下がりの雑談配信	
5	先輩の配信とお泊り鑑賞会	39	4	前日ミーティング	126
6	増えていく仕事と企業契約	62			
7	3徹くらい朝飯前	71			
8	最終工程とデビューのお話	78			
9	キャラデザと先輩からのアドバイス	84			



## 1 どうしてこうなった

『んんっ、登録者数45万越えありがとうございます〜』

【うおおおおお!!】【ママだあああああ】【ママあああああ】【?500000この日のためにすべてを持ってきたっ】【?500000俺もだっ】【?2525お布施だ!!!】【?10000止まるんじやねえぞ!】【?25000投げる投げ続けるんだあッ】

配信開始直後に続々と投げられてくるスパチャの群れ。一部抜粋でこれだけあるけど実際はこれの数倍以上が投げ込まれてる。みんなのお財布事情どうなってるんだろ  
うか、あれかな? 無限に沸く財布とか持ってたりする?

ママあああ火猫りんね

ママ! 汐見マリ

ママあああああ 白雪氷花

ママあああ 姫神あまね

ママああああ 月宮かぐや

まあま! アルマリ

このコメントを打っているのは私も所属するワールドクリエイイトが運営するv t u b e r グループ『ぶいちゅーぶ』の3期生。

もともとフリーのイラストレーターをやっていた私がこの子らの体のデザインをしてワールドクリエイイトの企業所属となつて、なんやかんやで配信者になつた経緯は……まあ、おいしい話そうかな。

まあとりあえず振り返つてみようか。

金髪巨乳に白肌碧眼。そんな二次元のような容姿を持つてる双子の姉妹、アシユリー・フレバンスに妹のフィリシユ・フレバンス。違いといえる違いは私の方がたれ目でフィーの方が眠たげな目をしているくらい。髪型も腰まで伸びたストレートなのも同じで体形も同じ。見た目的なもので言えば目以外はすべて同じ。

趣味嗜好ともなればさすがに違つてはくるんだけど、私は小さいころからずっと絵を描き続けて高校在学中に商業デビュー、部屋の内装も集めに集めた資料や画集を収めた本棚に絵を描く機材一式が置かれた女子力がかなり薄い感じになつてる。

フィーは音響動画制作にのめりこんでいて私以上に女子力のない部屋になつてる。

電子キーボードにギターにベース、作業用PCといった感じで。今では動画制作や作曲依頼も受けてあれこれ仕事の手を伸ばしてゐるみたい。

とまあそんな感じでヲタク気質な姉妹なんだけれども、両親ももちろんガチ勢といえるヲタクでヲタ趣味と通じて知り合つて意気投合して結婚、日本に移住して本場のヲタ活に触発されてさらにのめりこんでいったらしい。レベルの酷さで言えば私らが作つた同人作品をコミケでブース出して売り出すレベルのやばさ。もつと酷いレベルで言えばヲタ趣味全開の会社を起業してる。

まあうちのやばい両親の話は置いて、今来たメールに集中しよう。

仕事絵も無事納品して手持無沙汰になつたから趣味絵でも描こうかとしていた矢先に送信されてきたメール。差出人は株式会社ワールドクリエイトで依頼内容は今後拡大していくV t u b e r のアバターの製作依頼。V t u b e r といえばモーシヨンキャプチャーを使ってトレースされた動きを反映させた3Dアバターを使った配信者だつたと思うけどその製作依頼ね……えーと、第3期生を募集するにあつて合計6名のキャラデザと表情差分……こういうのって普通ばらけて描くもんじゃないの？

報酬もいい感じだし別件もないから受けるけど。

ひとまず依頼内容をもう一回流し読んで依頼を引き受けるメールを返信する。

「ラフ起こしてもいいんだらうけどキャラ設定とかもう決まつてるだらうし返信きてか

ら描いたほうがいつか」

とはいってもこのワールドクリエイイトが手掛けるVtuberグループ、ぶいちゅーぶの詳細とはよく知らない。というか配信を見たことがない……ということからアーカイブを手あたり次第に見ていこうかなと。知ってる前情報としてはキャラデザがすごいかわいって言うのと各キャラがバグっているということだけ。

そんな時間もないだろうしバグってるらしいその2期生のアーカイブを見て行こう。

\*\*\* \*\*

235：名無しのVの民

Twitterのトレンド見たか？ まじでやばいぞあれ！

236：名無しのVの民

リーチェの奴だろ？ しかもそれ描いたのあのアシュリーだったのがやばい。マジキチがマジキチ描いてる。

237：名無しのVの民

》236 絵師詳しくなんだがアシュリーってそんなやばいの？

238：名無しのVの民

》237 あれはマジでやばいぞ。早いうまいマジキチを兼ね備えたやばい絵



師しかも絵はめっちゃうまい。

239：名無しのVの民

ファンアート系でvtuber描くの初じゃね？ あの画力で描かれたりー

チエ見れるとかグウシコなんだが

240：名無しのVの民

コメントも見たか？ 40分くらいで描いたつてあったぞ。

241：名無しのVの民

あのクオリティで40分とかないだろw書き込みえぐかったぞあれ……

242：名無しのVの民

》241 だからマジキチなんだよYouTubeにチャンネルあるからア

カイブ見てこい。マジで描くの早いぞ。

243：名無しのVの民

投稿1分でふあぼ3万とかえぐすぎだろ。リツイートも3, 5万とかもはやバ

グ。

244：名無しのVの民

他のライバーも描いてくれねえかな。何ならぶいちゅーぶ全員の見たい。

245：名無しのVの民

》244 コメント欄もそんな感じの奴めっちゃあったわ。俺もコメントしたけど。

246：名無しのVの民

とりあえず垢フォローしてきたわ。チャンネル登録も済み。

247：名無しのVの民

》246 通知もいれとけよーたまにゲリラでライブ配信すつから。声めっちゃかわいそアシური。

248：名無しのVの民

おい！ アンケート出てるぞ！ 2期生描くか個別で描くか！ 2期生だけとか言わずに全期生だよなあ

\*\*\* \*\*

「おお、なんかすごい伸びてる」

2期生は、音桜リーチエ、歌鐘詩歌、画狂くるみの3人。全員が絵も歌も機材も触れてその各分野でさらにバグといわれるレベルで特化している。音桜リーチエは音響機材方面、歌鐘詩歌はその名の通り歌、画狂くるみは絵といった感じ。

とりあえず全員の初回配信のアーカイブを見てきて絵柄が一番好みだった音桜リーチエの絵をさらさらーと描き上げてTwitterとpixivに掲載してほつて

おいたらやたら通知が来るから通知を切つてさらに放置。飲み物を取りに下に降りて戻つてみると万単位でふあぼりツが来ており、コメントもなんかめっちゃ来てた。それと同時に置いておいたアンケートの方も結果が出た……キャラ単体をぶつちぎりで差し置いて全期生がぶち抜きで票を稼いでるけど、全期生に関してはネタで置いてたけどまあアンケートの結果だし描くか。

「さて、構図考えましようかね……ん、メール来てる」

ワールドクリエイイトからの返信内容は企画書でもキャラ詳細でもなくて、

『よろしければ明後日3期生を交えたミーティングを開きますので参加しませんか?』

んー、この界限のノリなんだろうか? つて思うけどどうしようか。文面よりも当人たちから直接聞いた方が描きこめるしいいか。

よし、行こう。

## 2 3期生の皆は強烈なように

「受け付けは……あつた。すみません、今日伺う予定になっていたアシユリー・フレバンズというものですが」

「アシユリー様ですね、こちらゲストIDになりますのであちらのエレベーターに乗って6階まで向かわれてください」

受付のお姉さんから渡された首から下げるタイプのIDカードを渡され言われた通りにエレベーターに乗って6階へ。6階のどこそこへ行けとか言っていなかったし行けばすぐわかる感じ？

そうこう考えているうちにポーンと音が鳴ってドアが開くと、

「お待ちしました、アシユリーさん」

扉が開くと同時になんかすごい美人さんに出迎えられた。ロングスカートにノースリーブのボウタイブラウスでシンプルな格好だけど本人に華があるから十分オシャレだし、ひとまとめにして肩に流してる髪がまた大人な印象を際立たせてる。

「私3期生のマネージャーをしています本城朱音といいます。この度はご足労いただきありがとうございます」

「いえ、私の方こそいい経験になる機会をいただいてありがとうございます」

「そう言ってもらえて何よりです。ではさっそくですけども、3期生の皆さんがいるミーティングルームへご案内しますね」

先導して案内してくれる朱音さんについてフロアを歩いていくさなか、廊下の壁やドアといったところに1期生や2期生のポスターやグッズが飾られてた。想像してた一般的なテレビでたまに見るオフィスといった感じはなくてドラマで見る開放的な感じ。受付の人もだけど社内勤務系の人は私服出勤可能な会社なのかな。

「つきましたよ。では、入りませうか」

ぼやーっと内装や人を見ていたら部屋についたようで特に待つこともなくささっと中に通された。

部屋の中は奥に長い内装で奥側には押し開くタイプの窓に壁に沿ってコの字に置かれたパステルカラーのソファにガラステーブル、手前側には丸いテーブルがあつて左側に壁際には大型のモニター、たぶんテレビも見れる奴があつて左側には簡易的なキッチンと小型冷蔵庫がある快適空間。

この部屋のソファのところに固まって喋っていた6人が部屋に入ってきた私らを見て止まつてる。

「やっときたマネちゃん。ミーティングって何するのー？」

「ねえねえ!! そのお姉さん誰!!」

「あらー、すごい綺麗な人やね」

「すっげー美人」

「海外の人ですか?」

「ツあ……」

おー、なんとというか個性が強そうというかV t u b e rをやる以上このくらい普通なノリなのかな。

「ミーティング始めますのでこっちに移動してください」

こちらにといわれて座らされた丸テーブルにソファにいた3期生の子らも座りなおしてる。

「はい、今日来ていただいたこちらの方は皆さんのV t u b e rとしてキャラクターデザインをしていただくアシユリー・フレバンスさんです」

「ママって事!!」

おっふ、見た目金髪少女の叫び声が……隣に来て座った時からなんかキラキラした目で見てきていたけども。ほんと見た目通りの幼女じゃないよね?

「ママってことはわかったけどあたしら全員の描くって事?」

「ほへー、でもそれって大丈夫なの? うちら6人分って事でしょ?」

「これまでの実績を鑑みてオフアーしてるのでそこは大丈夫です」

「実績……となるとかなり有名な絵師さんということでしょうか？」

「イラストとかそない詳しいさかいわからへんのやけど……」

「え、あ………!!!」

「簡単に言ってしまうと2期生としてオフアーしたことがあるといえれば大体わかりますかね」

「……オフアーとかありましたっけ？」

え、待ってそれ本当に記憶ないんだけど。オフアーなんていつ来てたの？

「仕事忙しいって端的な返信で断られましたけどね。確かラノベの挿絵が2件にゲーム原画1件、漫画キャラクターデザ2件……後何かありましたっけ」

「企業案件3件ですかねー。そういえばその時期仕事過密すぎて記憶あいまいなんですよね……」

あー、言われて思い出した。来た依頼ばんばん受けてたら過密になりすぎてかなり地獄を見た時期だったわ。うん、確かに案件重なってるから無理って断ったわ。

「サツサインくださいッ!!!」

「うわっびつくりしたあ………何、ファンだったりする？」

「うん……」

いきなり大声を上げた目隠れ巨乳少女。サインは別にいいけど差し出してるスマホケースに書けばいいのかな。

一応絵を描く前提で道具は一式もってきてるからペンもあるし……よつと。

「はい、書けたよ」

「あ、りがとう……」

「あれ、このサイン見たことある……ねえ、化粧品のパッケージデザインとかやってない？」

「あー、九条財閥の案件で受けた奴ならあったかな」

「うっそ本当!? あたしあのデザインすごい好きなんだけどー」

「ということはこの子は九条家のお嬢様って事か。うん、お嬢様感あふれる喋り方してる。ツインテだし。」

「うちもこのサイン見たことある。藤堂製菓の包装紙のデザインしてへんですか?」

「やったねー、報酬の一部で貰ったお菓子セットおいしかったよ」

「この子は藤堂製菓の子か。貰ったお菓子おいしかったなー」

「さつくりと知名度と実績証明ができたところで本題に入りましょうか、改めての自己紹介を」

「じゃあ凜から! 結城凜ゆっきりんって言うの、凜って呼んで! よろしくねママ!」



「うんよろしくね、凜ちゃん。後ママはちよつと……」

「はい次あたしね。九条ありさ、さつきのでわかったと思うけど九条家の一人娘よ。ありさでいいわ、これからよろしくね」

「うん、よろしくね、ありさ」

「じゃあ次な、大平海里。おおひらかいり海里でいいよ、そつちのお嬢とは違って一般人だからよろしく」

「ほな次はうちやね。とうどうくれは藤堂紅葉いいます、紅葉って呼んどおくれやす。長い付き合いになるやろうさかいよろしゆう」

「次はわたしだね、白園エリサしろそのって言います。ロシアと日本のハーフでアルビノとかじゃないよ、エリサって呼んで」

次々と自己紹介が進んでいって残った最後の一人。さつきコミュ障臭全開でサインをもらいにきた目隠れ巨乳っ娘。

もじもじと下を向いて小声で何かを言ってるけど聞き取れない。

「さつちゃんフアイト!!」

「ツ、あ、あまみや天宮、さつき……で、す。が、画集とか同人誌全部持ってますツう、あ……」

「ありがとう、さつきちゃん」

後で色紙用意してもらって何か描いてあげようかな？

うんうん、こうやって生の声でフアンに会えるのはいいね。

「じゃあ一応私も。アシユリー・フレバンスです、3期生のキャラクターデザイン全般担当ですので……」

うーん、まどろっこしいなこの言い方。端的に言っちゃおう。

「私に描けないものはないので遠慮なく要望だしてね」

やるからには徹底的に抜かりなく完璧な絵を。この子らの門出を後押しできる圧倒的な絵を描き上げよう。

### 3 娘には愛情をささげましょう

「ママすごかったね！」

「いや、あれすごいとかそういうレベル超えてるから。ちよつと怖かったんですけど」

「絵描く人みんなあんな感じなんですかね」

「……」

「さつきはん、見るのに夢中やね」

自己紹介が終わった後みんなから要望を聞き出してラフを描き起こす作業をしてる。持ってきていたiPadでひたすら描いては消し描いては消しをしているところを見るように見られてる。一部、というかさつきちゃんも真横の席に座ってじーつと見ているけども。

拳動不審といった感じだったのに今では真横でじっくりと見てきているものだからかわいらしい。ちよつと撫でてみたい欲求にかられるけど撫でたら野良猫のごとく逃げ出しそう。

まあそれはそうと今回の6人分の絵。普通とかソシヤゲーみたいな膨大なキャラがいる分に関してなら一人で複数のキャラ絵を描くことも多々あるんだろうけど、個

性色を出していく場合だと1人ひとキャラが普通な所。絵柄も固定されるし各キャラの設定やV t u b e rとしての個性の確立にも影響が出てくる。俗にいうハンコ絵とかいう奴、髪型が違うだけとか目の色が違うだけといった感じの。

それを踏まえて私がするべき作画。私、アシユリーとしての匂いを残しつつ絵柄はすべて違うものにする。同じだけれど同じじゃない、6人個別で1人ひとりが別人として確立した物を描く。

今回描くのは今までの単なるイラストじゃない。そこに魂が入って確立された個となつて動き、喋り、愛される。凜ちゃんがさつき言つたみたいに本当の親のごとく愛情をこめて生み出さないといけない。

つま先から髪の毛の端に至るすべてに愛情を。広大に広がるネットの世界で力強く全力でやりたいことを何でもできる体を。

「……なんか雰囲気変わってない?」

「恐ろしいまでの集中力だねー、これうちらの声とか聞こえてない奴じゃない?」

「そこまですて出来上がる絵は楽しみですね」

「そない集中しとるんならうちらここおつたら邪魔かいね」

「じゃあ皆でご飯食べ行こーよ!」

「それもそうね、お昼食べ行くのにちようどいい時間帯だし。ほら、さつき?」

いつまで

も張り付いてないで行くわよ」

「っあ」

「お昼買いに行くついでにアシユリーさんにも色々買ってきてあげましょう?」

「うん」

\*\*\*

「んっんん〜……うん?」

初期案という形で1人目を描き上げて伸びをしたら窓際のソファで団らんをしていた6人と目があつた。なんかすっごい不思議な生き物を見る目で見られてるんだだけでも。私絵を描いてただけだよ?

あ、私の周りになんかコンビニスイーツとかいっぱい置いてある……ついでにな感じで買ってきてくれたのかな。おいしいんだよね、このチーズケーキ。

「やっと戻ってきたわね」

「あれから4時間ぶつ通しとかマジやばいわ」

「あれ……、でも配信と比べたら、まだ短い方だよ」

「さつきさつちゃんに教えてもらってYouTubeの動画見たけど短くても全部5時間あったもんね」

えーと、あれか。描き始めてから4時間ぶつ通しでやってた感じかなこれは。普段配

信以外で人前で描くとかしないからあんま意識してないけど、はたからみたらやつぱり様なのかこれ。家だとフィーも似たような感じで機材いじったりしてるから気にしたことあんまなかったけども。

「それよりも！ ねえねえ、手止めたって事は描けたって事よね！」

「初期案だしまだ一人しか描けてないけどね、ほら」

「わああつ、ねえ!! これって凜だよね！ すっごい可愛い!!!」

正面、後ろ、横、衣装、アクセアリー、目といった部位ごとのカット絵に全身図での正面と後ろの絵。描き上げたのは凜ちゃんの要望通りの絵。可愛く元気な猫娘、猫が好きだから猫になりたいというストレートな要望。

「……これで完成でいいんじゃないですか？ もう十分なレベルで描けてませんかこれ」

「んー、まだまだかなー。基本ベースはこれでいいとしてもね」

「ねえさつき、あたしこういうのあんまり詳しくないんだけどこれってまだまだとかいう段階なわけ？ 全然そうは見えないんだけど」

「他の絵師ならこれで十分完成だしTwitterやpixivにあげたり仕事絵なら納品するレベルだけどこれはまだ違うここからまだ描きこんで着色して完成状態にしてから全体バランスを見て細部修正までやってそこに合わせる背景を描いて初めて完

成するからこれはまだ……あう」

目がこぼれるんじゃないかってくらいに見開いて私の絵をみながら早口でまくしたてたさつきちゃん。ヲタク特有の自分の領分の事になると早口でまくしたてる奴をやつちやつたのに気づいて今は顔を真っ赤っかにしてうつむいてるけど。

「まあ、さつきはんがここまで言うんやつたらまだまだなんやろうねえ」

「マネさんがドヤ顔で紹介してた理由がわかった気がするわ」

「ねえねえ、YouTubeのアーカイブのコメントに出てくるマジキチって何!？」

「マジキチって……まあ、言いたいことはわかるけど」

「ただ絵を描いてるだけなんだけどねー、配信するとマジキチってコメントが来るんだよねー。うちの妹も配信したらマジキチってくるって言ってたし」

なんだっけ、機材いじりながら同時進行で1人バンドやっただけなのになって言ってたっけ。左手で電子キーボード操作して右手で2個目の電子キーボード操作して両足でなんだっけ、音いじる機械操作して歌って配信してたらしいんだけどその時のコメントがマジキチであふれてたようでした。

「姉妹そろってハイスペックなんやねえ。2期生にスカウトされるぐらいやしすごいんやろうねえ」

「仮に2期に入ったらくるみ先輩の梓だったのかな」

「亓先輩ですか」

「亓先輩？ 名前くるみじゃなかったかしら」

「あの人苗字画狂でしょ？ 北斎の最後らへんの雅号が画狂老人亓だから亓って呼ばれてるらしいよー」

「海里はんずいぶん詳しいんやねー」

「まあねー」

「まあいいわ、話がだいぶ脱線したけどママがマジキチであたしらのV t u b e rとしての体がとんでもなくぶっ飛んだものになるのはわかったわ。それで、今日はこの後どうするの？ 一応ママが絵を描いてる間にミーティングは終わったし集まった要件は終わってるわけだけど」

あー、そういえば今日ミーティングでここに来たんだっけ。私それそっちのけで凛ちゃんの絵描いてたから全然内容知らないや。昼頃についてそっから4時間描いてたから時刻的には17時近い。

「明日日曜だしどっか行つて遊ぶとかでもいいよー」

「そうやね、うちも特に用事とかもないしこのまま遊びに行くのもええかもね。そやけど、凛ちゃんにさつきはんはんにエリサはんはんにありさはんは未成年やさかいそこまで遅く遊ぶ訳にもいかへんやろ？」



そういえば自己紹介の時に歳とか聞いてなかったっけ。今ので海里や紅葉が成人つてのはわかったけど他の4人は何歳なんだろ。高校生くらい？ でも凜ちゃんは中学生っぽいんだよねー。

「二応言つとくけど凜、これでも高校生よ」

「……iskapes?」

「なんて言ったのかわかんないけど高校1年生だよ!!!」

ついでイギリス英語で返してしまった。というか凜ちゃん高校生だったんだ、しかも3年生。

「あたしは2年17歳でエリサとさつきが1年で16歳よ」

「うちは21で海里はんが20やね、ママさんは何歳なん?」

「20だけどもんなして私の呼び方ママなのね……」

「だってママだし」

いや、うん。そうだけどね? なんかもう修正できる気もしてないけどさあ……。高校生組はちゃん呼びでいいかな……。

「皆さんそろそろお帰りですか?」

「はい、このまま帰るか遊びに行くか話してたところですよ」

「遊びにですか。凜さんが補導されなければいいと思いますよ?」

「ちっちゃいもんねー、凜は」

いわれないと中学生にしか見えないもんね、凜ちゃん。

「ちっちゃくないもん！ 補導なんてされたこと……何回かあるけどちっちゃくないもんー！」

「凜はちっちゃかわいい」

「さっちゃん!!!」

「凜ちゃんちっちゃかわいい」

「ママまで!!!」

「皆さんと打ち解けられたようで何よりです、アシリーさん。それと、こちらが正式なIDカードになりますので、次回から受付で見せていただければ大丈夫ですよ」

受け取ったのは朝貰ったのと同じデザインだけど何時撮ったのかわからない私の顔写真がついてる。正面から撮った顔だけどこれ何時撮ったの??

「あとアシリーさんに1つお話をと思っただんですが……また次の機会の方がよさそうですね」

朱音さんの目線を追うともものすごく残念そうな表情をしてる3期生が。あ、私も遊び行くメンバーのカウントされてるのね。

「それでは今日はお疲れさまでした。次回ミーティングはディスコードでお知らせしま

すね」

そして私は流されるがままに朱音さんと3期生が入ってるディスコードに入れられて社外に出ると、なんか長い車が止まつてた。やっぱ大きい会社だとこのくらいの社用車？ は持つてるもんなんだねーとか思ってたんだけど、ありさちやんがそれに向かって歩いて行つたら中から人が出てきてドア開けたからちよつと意味わからないよね。

「ん？ 止まつてないで乗りなさいよ」

「……あー、ありがたお嬢つてのは聞いてたけどどこまでかあ」

「運転手付きのリムジンとか初めて見ました」

「ちよつと引いた……」

散々な物言いをしつつもリムジンに乗り込んで内装のシートの座り心地に驚いたり、備え付けの小型冷蔵庫とかいう意味わからないものから出てきた飲み物をのんだりしてわいわい喋りながらリムジンに乗せられて言った場所はこれまたよくわからない豪邸だった。というかここテレビで見たことある家だわ……。

「よく考えたら門限とか未成年とかめんどくさい事考えるなら最初から家で遊べばいいじゃないってことで、我が家に連れてきたわ。みんな予定ないって言ってたし泊まりで遊びましょ」

「ねえさつきちゃん息してる？」

「……」

「ママ、さつきはリムジン乗ったあたりから気分なくなってます」  
「お泊りなんて久しぶりやわあ、楽しそうやね」

まあ、うん……今日泊まるって連絡入れようかな。

## 4 これ以上濃くなるのはやめてもろて

「わたしビリヤード初めてやりました」

「胸が邪魔でしにくい……」

「棒が長くてできないんだけど!!」

はい、ありさちやんの家に急遽お泊り会をすることになったのはいいとして、本来の主題である遊びはどうするのかと思えば、

『遊技場あるから行きましょ』

遊技場なるところに連れていかれてそこにあつたのはビリヤードにダーツといったのが置かれた部屋。で、その部屋の奥にあるドアを抜ければテニスコートほどの広場があつて……うん、いろいろおかしい。

そんな中で各々興味ある物をやつて遊んでる感じ。

「うわ待つてこれどう止まるのこけるつてうわあつ」

「スケボーつてむずかしいんやね。あ、こけた」

「よつと、よし入った」

スケボーやったりバスケやったり。

「ま、ままは何もしないの?」

「私完全インドアのもやしっこだからねー、体力持たない」

「……? 24時間耐久お絵かきとかしてるの?」

「あれは休憩挟んでるし動いてないし平気へいき」

「きゆう……けい? 違う絵を描くあれが??」

私みたいにベンチに座ってぼんやりしていたり。隣には胸が邪魔してビリヤードを諦めたらしいさつきちゃんが出てくる。長めの前髪で目は完全に隠れて下ろされた髪は癖のないストレート、ここまでは地味な印象だけど着てる服は今流行りの透け感コーデでレーススカパーで谷間が見えないようにして着てるブラトップの上にシア素材のブラウスを前開きで着て下はプリーツのスカンツとオシヤレな感じの装いをしてる。どうせなら髪も前髪作って緩くウェーブ当てるとかしたらいいのに。

「凜ちゃん、強く生きて」

「エリちゃんそれどういう意味かな!? いいもん凜スケボーするから!!」

活発という言葉がこの上なく似合う凜ちゃん、恰好からしてそうだけどショートパンツにTシャツ、袖をまくった羽織といった動くの重視といった服装。金髪のショートカットもヘアピンで止めて動く気満々になってるし。

その後ろから歩いてきたエリサちゃんはふわふわとした白い髪に兎のように赤い目

に白い肌、その白い肌を日光から守るためなのかロングのフレアスカートにレーヨンブラウス、その上からサマーニットを羽織ってる。やっぱり肌白いし赤くなるのかな。

「隣いいですか？」

「うんいいよー」

元気にバスケをしてるありさちゃんやスケボーしてる海里にそれを楽しそうに見てる紅葉がいたからベンチ座ってたんだけど、そろそろ暑いからクーラー聞いた室内に戻ろうとしてたけど……まあ、うん。

「うう、暑い……」

隣にいたさつきちゃんがバックかたら制汗シートを取り出すと腕とかを拭くのかと思えばブラトップにつけていたレースカバーを外して谷間に手を突っ込んだ。うんわかるよ、私も今谷間とか汗かいてるし。

「ふう……あ」

「他所じゃしないようにね」

「は、い……」

抜けてるといふか隙が多いというか。

谷間に突っ込んだ手を抜いてシートもバックに放り込んで顔を赤らめてうつむいてるのを見る限り、これはあれだポンコツだね。

「エリサちゃん暑くない？」

「冷房でキンキンに冷えてますから平気ですよ、ほら」

自然な感じで重ねてきたエリサちゃんの手は氷水に入れてたかのごとく冷えてた。え、なにこれ冷たすぎない？

あ、でもこれはこれで冷たくて気持ちいいかも。

「冷房に当たるとすぐこうなっちゃうんで」

「それで着こんでたりする？」

「紫外線対策もありますけど主立つてはそうですね」

なるほど、キャラ要望の設定はその辺から取ってきてるわけか。ふむ、そうになると眼の色はクリア系よりの色調にして肌もそれに合わせて……髪もいじって、あ、でもこれいじるなら服もバランス崩れるからデザイン変えてなんなら装飾品も追加するか。

「——マ」

エリサちゃんの目つきはほわっとしてるといふか、柔らかい感じだ強いからそれはそのまま反映させて……ん、感情に合わせて瞳孔の形変えるのもいいかも。喜怒哀楽の4パターン作るとして……。

「ママ！……またなにがどうなってトリップしてるのよこれ」

「手を握ったら旅立つちゃいました」



「だってマジキチだからねー、うちのママは。エリサが手をにぎにぎしてても気づく心配ないしさ」

「せやけど、お人形さんみたいに綺麗な顔やさかいこうやってキリつてした顔してるとほんま惚れそうなるわ。隣で顔あこうしてるさつきはんもかあいらしいけど」

「ママのマジキチモードだー！」

「……」

「ねえ、目つき怪しいんだけど」

「いややわあ、きのせいきのせい」

「紅葉、未成年に手出ししたらアウトだから。アシユリーなら別にいいだろうけど」

「んふふくなんのことやろうねえ海里はん」

「え……紅葉つてソツチなの？」

「てえてえ奴だ……」

\*\*\* \*\*

エリサちゃんのキャラデザを考えて気が付いたら嬉々として私の胸を揉んでる凛ちゃんと目があつただけで、どうにも全員が順番で私の胸を揉んで誰の時に起きるかで遊んでたらしい。さつきちゃんが爆発するのかなってレベルで顔が赤くなったりしてたけど、意識は飛んでなかったから大丈夫でしょう。

夕飯時なものもあってありさちやんの遊技場から連れていかれたのは私らが座る分にはちようどよさげなサイズの円卓が置かれた部屋で、椅子に座ると同時くらいにカートに料理を乗せた人が入ってきて料理が乗った皿を各自の目の前に置いて行つた。うん、意味が分からない。

引いてる顔もあれば呆けてる顔もあるし、さつきちゃんみたいに徐々に魂が抜けて行つてる顔もある。

「じゃ、食べましようか。ちゃんとデザートまであるから」

料理が出てくるたびにありさちやんが説明してくれてたけどおいしいなーくらいしか頭に残らなかつた。3 大高級食材とかなんか高そうな肉とかの名前言つてたけど気にしだしたら手が止まりそうだったからあんまり聞いてない。

ありさちやんの規格外レベルのお嬢様ぶりに驚きつつ、食後に部屋に入ってきた使用人に案内されてきたのは今日泊まる部屋なんだけれど、ここで普通に寝れるきがしない。というか、もうひと騒動起きる予感がしてる。うん、具体的には――

「ママー！ 遊びに来たよー!!!」

「着替えも用意してくれてるみたいなのでお風呂のお誘いです」

こんな具合に。

「夕飯食べて時間ほぼ経つてないけどこの後何かあるの?」

「ありさは何か配信を皆で見るとか言っていましたよ」

配信ねえ。

エリサちゃんの先導の元歩いていけば廊下の先で他のみんなが待っていた。どこかなーく、紅葉から怪しい空気を感じるけど気のせいでしょう。

「来たわね、それじゃさくつとお風呂済ませて配信を見るとしましょう」

「ありさ、誰の配信見るんですか？」

「11時から2期生のオフコラボ配信あるからそれ。大部屋にあるモニターで見ようかなって」

あ、さつきちゃんの意識がまた遠くなっていつてる。

60インチ以上の大モニターとかだろうなきつと。ある程度規格外を想定してたら衝撃も少なくなるはずだし……たぶん。

意識が遠くなったついでにお腹も膨れて眠そうにしてるさつきちゃんの手を引きながらありさちゃんについていくと、他の部屋のようなドアを開けてはいると大人数で使うのを想定された広さの脱衣所が。

「おもつとつたんより広いねえ。まあええわ、着替えてこれでええの？」

かごの中に入っていたのはパイル地のショートパンツとTシャツ。ついてるタグを見る限りブランド物なのはわかった。

サイズかんはどうなのかわかんないけどフリーサイズっぽいしまあ気にせずにと。

「マ、ママってば意外と大胆なのね。うわ、おつきい……」

「さすが外人というか、その辺潔いというか」

「エリサはんも……あら、意外と着痩せする子やったんやねえ」

てきぱきと服を脱いでかごに服を入れてたら他の子らがなんか顔を赤くしてみてきてたけど、エリサちゃんも隣で服を脱いでたんだけど着痩せをする子だったらしく意外と胸が大きい。これでもキャラデザに取り入れようかな。

「なんかもう笑えるレベルですごいわね。胸大きいし腰細いし脚長いし」

「それに比べてお嬢は……まあ、元氣だしなつて」

「ちよつと海里、あんた今どこ見て言ったのよ」

「うわあ、紅葉もでかいしさつきもでかい」

「胸よね、明らかに胸見て言ってるわよね!？」

「大丈夫だよありさちゃん！ 凜もそんなに大きくないから！」

服を脱いだ他のメンツもある部位を指して大きい小さい言いあってる中、タオルで前を隠すようにしてるさつきちゃん。裸で仁王立ちしてる凜ちゃんとは正反対で見てて面白い。

サイズで言えば、さつきちゃん、私、紅葉、エリサちゃん、海里、凜ちゃん、ありさ

ちゃん。そういえば3D化するときに差異がでるから実寸とそこまで離さない方がいいよね……ここも取り込むか。

「……まあいいわ、不本意だけど！ 配信時間も迫ってるしきくつと入りましょう」

「せやねえ、うちが背中流したろうか？」

「なんか怖いから遠慮しとくわ」

「いややわあ、別に取って食うたりはせんよ？」

今のうちにささつと体とかを洗っちゃおう。ありさちゃん、しばらく犠牲になっててね。

ありさちゃんを生贄にして浴室に入っていくと、洋風なデザインかと思えば完全な和風でヒノキの浴槽に温泉宿とかで見る畳敷き。

前に仕事の依頼受けた時の報酬の額といい、パッケージをデザインした奴を含む基礎化粧品を定期で送ってくれてる……うん、今でも継続配送されてくる。後で調べたら1回の配送分で5万はするみたいだしこの前届いた奴で累計50万分は届いてる。あー、でもこのレベルの金銭感覚なら大した額じゃないか。

木の風呂椅子に座りつつ、備え付けの浴槽で使える化粧落としでメイクを落としていく……とは言ってもファンデーションとリップ落とすくらいだけ。アイメイクはモロに外人顔だから多少やっただけでも濃くなるからよほどのことがない限りはほぼし

ない。

手早くメイクを落として髪と体を洗っていざ浴槽へ。お湯の温度はちょうどいい感じ。

「へえ、アシユリーってメイク取ったらちよつと幼くなるんだ」

「そういう海里も目元幼いじゃない」

「母親が幼顔だからね、まんま顔が似たからそこはしょうがない。うちとしてはあつちの女子高生組がお嬢以外ノーメイクってことに驚いてるんだけど」

洗い場の方を見ればメイクを落としてるありさちちゃんと紅葉。さつきちゃんとエリサちやんは落とす気配もなく髪と体を洗ってる。

「まあそのへん興味なさそうだしね、あの2人。それはそうと凧ちゃんどこいったの?」  
「ぶはっ、ここ泳げるね!!」

行方不明になってた凧ちゃんはいつのまにか湯舟で泳いでたらしい。そして今、私の目の前に飛び出てきて胸元に飛び込んだできた。

「凧ちゃん、お風呂で泳いじやだめだよ」

「えへへ。ママのおっぱいやわらかーい」

「凧、あんたそんなんだから小学生とかに間違われるのよ……」

「いいなあ」

「欲望もれてるよさつきちゃん」

むにむにと胸の感触を楽しむように揉んでくる凜ちゃん。小さい子が面白半分ですんでる感じ……なんかなんとも言えない状態なんだけれども。

「こういうのなんやつたかなあ、てえてえいうんやつたかね？」

「こんな生々しいのてえてえなんて言わないわよ。凜、あんたもいつまで揉んでるのよ」「ありさちゃんも揉もうよ！」

「え、ちよ、うひやあつなにこれ柔らかかつ」

凜ちゃんを離そうと手を伸ばしてきたありさちゃんの手を掴んで私の胸に押し付けてきた凜ちゃん。

「……胸って柔らかいよね？」

「さつき、人それぞれって言葉があるんだよ。それ以上は言っちゃダメ」

「さつきもエリサもさつきから何言ってるのよ！」

「んー、お嬢のサイズだとちよつと揉みこんだら骨あたるかやつぱり。今のうち大きくしとかないとちよつぱいのままだよー？」

「人の胸揉んで悲壮な声で喋るなあああ!!!」

ばしやばしやと水しぶきをあげながら逃げて行く海里とそれを追いかけていくありさちゃん。凜ちゃんもそつちを見てるからそのすきに胸を掴んでる手をどけておく。

「あない子供みたいにはしゃぐんわええけど、時間はええんかね？」

「もう少しは余裕あると思うけど、もうあがる？」

「わたしはのぼせそうなんで先上がりますね……」

エリサちゃんは寒がりかつ暑がり、と。

「じゃあ私もあがろうかな」

「ままものぼせそうなの？」

「そもそも長湯しない質だからねー」

お風呂入ってる暇あったら絵を描いてたいしね。さすがに今日はこの子らもいるしそうはいかないけれども。

軽くふらついているエリサちゃんを支えつつ脱衣所へ。

「改めて見ても綺麗な体やねえ」

「言いながら背筋撫でるのはやめて？」

「ほんならこの後ろから抱き着いて胸揉みしだいたほうがよろしおすか？」

「ねえ言いながら密着してくるの怖いんだけど!？」

あれ、この人ガチ？ ガチの人??

今回されてる手はお腹にあるけど地味に上に向かってきてる気がするんだけど。

「ちよつと人の家で発情しないでよ」



「あら残念」

追いかけてここから戻ってきたらしいありさちやんの声で紅葉は離れて行った。これはあれだ、2人きりとかだったら頂かれていた奴。え、3期生やばくない？ 個々の個性ただでさえ濃いのにそこにガチが入るとか濃いすぎるんですけど。

「また今度やねアシユリー」

丁重にお断りさせていただきます。

\*\*\* \*\*

「そろそろね」

お風呂上り、用意されてた着替えに着替えてありさちやん案内の元連れてこられたのは案の定60インチなんて超えてるモニターの置かれた部屋。なんか機材とかも開いてあるけどV t u b e rとしての配信をする部屋だったりするのかな。PCのスペックみたら配信するにはオーバースペックだけでも。

窓側に置かれたデスクに設置されてる別のPCやゲーミングチェアとはまた別に部屋の中央あたりに置かれたコの字のソファにテーブル、そして例の特大モニター。

ありさちやんがソファに座ってテーブルに置かれてるPCを起動させてY o u T u b eの配信ページを表記させると今日見る予定のライブの待機画面がモニターに映された。

この前、私が描き上げた音桜リーチエの立ち絵をサムネ画像として。

## 5 先輩の配信とお泊り鑑賞会

「んっんっ……はい、今日も配信やっていくよー」

上位チャット▼

?10,000 ?30,000 ?50000 ?40,000

?

・待ってましたああああああ

・きちやああああああ

・今日は!!!!演奏ですか!!!!

・マジキチ演奏きちやああああああ

・待ってましたああ

・?10000 ネチケ代

・?30000 S席代金

・?50000 グッツ代金

・?50000

・無言ニキ来たぞ

・?400000 キめにきたわ

「スパチャありがとうねー、そして相変わらずの無言ニキ。まあ演奏はいつものごとくやっついていくんだけども！ 今日の待機画像見た？」

上位チャット▼

?

?10,000 ?20,000

・Twitterでバズった奴だろ

・トレンド秒で1位とかマジでエグイ

・絵師界のマジキチは伊達じゃねえ

・さっそく待機絵に使ってて草

・許可取り済みなん？

・?100000 今日のお代

・毎度繰り返される卍とアシユリー神絵師番付

・しかしアシユリーには認知されてない模様

・草

・やめろよこの話題出したら卍発狂するぜ？

・?200000 発狂代

・んな代金スパチャ送るなw

「おーおー、見てくれてるねー。くるみちゃんは安定の発狂してたけどまあいつものことだしね。絵に関してはこちらとDM送って許可貰ってるから平気だよ。あ、そうそう、この許可取りしてることくるみちゃんに見られて発狂させちゃったんだよね。ほつといたら治るしまあいいかなって思ってたままにして帰ってきちゃったんだけどさ」

上位チャット▼

\$50.00

?

・ やってることがえげつなさ過ぎて草

・ やめろよお卍のSAN値のマイナスだああ

・ \$50.00 nice crazy MNJI

・ 海外ニキから謎の褒められ

・ これ褒めてんのか？

・ しかしあの噂な、アシユリー2期生スカウト話

・ あのマジキチ具合なら信ぴょう性あるだろ

「その辺の話はマネージャーからも聞いてないから私もよくわかんないんだよねー。あのマジキチ具合ならスカウトは本当っぽいんだけど。まあその辺の話がくるみちゃんが発狂ポイントになってるのも事実だし。あの子台パンするのはいいけど膝打ちでや

るから最近脚に痣できてるんだよね、痣。しかもこの前打ち抜いて台壊したし」

上位チャット▼

?

?100000

・痣とかまじこええw

・今なら世界取れる

・?100000 世界遠征費

・台壊したとかこれで何台目だよw

・5台目だちなみなみに画面ぶち抜いたiPadは3台

・ちよwwwww

・それま? iPadぶち抜くつてなにwwww

「発狂レベル高い時に描いた絵が納得いかなかったから画面ボコボコに殴って液晶破壊した奴でしょ? あれで手怪我して一時お絵かき配信出来てなかったんだよねくるみちゃん。一応アーカイブあるよ。あれはちよつとしたホラー動画だから閲覧注意だから見るなら自己責任でね。アーカイブないけどステンレススタンブラーでボコボコにした奴もあつたかな」

上位チャット▼

?

?300000 ?100000

- ・自己責任動画

- ・そんなんようアーカイブ残したな

- ・あれはマジでやばいもはや人間の言葉喋ってねえもん

- ・恐怖に包まれる漫画体験できるぞあのアーカイブ

- ・体験動画になつて草

- ・?30000 体験料、逝ってくるわ

- ・誤字……合ってるか

- ・タンブラー使つてまで殴るとか怖えわ

- ・配信で生発狂見たけどあれまじで怖いぞ

- ・?100000 トラウマがよみがえる

- ・涙ふけつて

「まあ、絵師界のマジキチ、アシユリーの待機画で始まった今日の枠。くるみちゃんの話  
 題で場が恐怖に飲まれちゃってるけど、さつきデイスコード送ったら暇を極めてた詩歌  
 ちゃんとの緊急コラボ枠だからみんな盛り上がっていいこうねー」

上位チャット ▼

?

?40000 ?50,000 ?100000 ?100000 ?500000

・きちやああああああああああああああ

・我が歌姫詩歌ああああああああ

・? 400000 千ヶ代

・? 500000

・? 100000

・? 100000

・? 500000 てえてえ梓きちやああああああああああ

・やったあああコラボだああああ

・? 500000 はよ、癒しをはよ

「はあい、暇を極めて耐久歌枠取ろうとした詩歌です。みんなー、喉を潰して満身創痕になる準備はできてるかなあ」

上位チャット▼

?

? 200000

・いつでもこいやああ

・? 200000 詩歌ああああ俺だああ歌つてくれえええええ

・もつともつともつとおおおおおおおお喉潰せえええええ

・もりあがつてきたああああああ



「いいねいいねいいねー、じゃあ待たせるのもなんだしさっそく歌っていいこうか。リーチエ、準備はいい?」

「いつでもいいよ。両手足目の動き問題なし」

「ん、枠の最後に特大発表あるから最後まで死んでもついてきてね。それじゃあ1曲目行くよお!!!」

「同接6万6千人……」

「さっきから赤スパしか飛んでない……」

「コメント欄綺麗だね!」

「リーチエ先輩って両手足にモーシヨンセンサーで目も使って演奏してんでしょ?」

ん? 両手足に目も使って演奏?

「ガチでやる時はそうみたいだけど普段は普通に演奏するみたいね。楽器関係は何でも弾けるらしいし」

「2期生はみんなキチ」

「さつきはん、ストレートにいいすぎやって。せめて常軌を逸してるくらいにせんと」

「それも十分ストレートだと思うんですけど」

んー、そのキチってる演奏法やつてる子にもすごい覚えがあるというかうちの妹がそれやつてるんだけどまさかね？ さすがにフィーが音桜リーチエなわけ……なんかありそうで怖くなってきたわ。今雑談パートになつてるし電話してみる？

「なにしてるのまま」

「ちよーと確認というか事実調査を」

ディスプレイを開いてフィーに通話を描ける。

出るのかなこれ。

「喉あつたまつてきたしまだまだ歌えるよ休憩なんてやめて歌おうよねえ」

「いやー詩歌ちゃんのお歌キチっぷりもいつものごとくだけど、雑談で普通に喋ってるのに休憩扱いかやっぱキチってるよね……ん？」

「どうかした？ 足つった？」

「んにや、電話……お姉ちゃん」

「ああ、例の双子のお姉ちゃんね。それはそうと足つったんじやないなら歌おう。はりあつぷ、さあ歌おう」

「んー……もしもし、どうかしたのー？」

上位チャット▼

？

? 3 0 0 0 0 ? 1 0 0 0 0

・ いやでるんかい

・ ? 3 0 0 0 0 お姉ちゃん助かる

・ 不定期で来るお姉ちゃんの粹

・ リーチエこれ詩歌の圧から逃げたぞ

・ ? 1 0 0 0 0 リーチエのしよげ顔助かる

・ ほっといたら何時間でも歌うからな姫

『私今日仕事って言って家でたじゃん』

「うん出たね」

『それで今仕事先の子の家に泊まって配信みてるんだけどさ』

「うん……うん?」

『よく見慣れたキチってる演奏法使ってるって聞いてまさかと思つて電話したんだけ

』ど

「……」

上位チャット▼

? 4 0 0 0 0

・ おっとついに来てしまった姉バレの時

?

・ 歴史的瞬間に立ち会ってしまった

・ ? 40000 神回立ち合い料金

・ ばれてーら

・ リーチエ魂抜けてるぞ

・ 動き止まったな

・ 姫隣で笑い転げてるぞw

・ ひーひー聞こえてくるw

・ 笑い声ですら脳がとろけるな

『あー……なんかごめん?』

「わあああああああああああああああああああッ  
!!?!?!」

『うわっうるさ』

「なにそれなにそれ仕事先の子の家泊まって配信みてるってその状況だけでもかなりおかしいのになにそれなんでよりにもよって私の配信見てるの!! 他にも見るのいっばいあるのになんで!!」

『いや、今日の仕事先ワールドクリエイトだし』

「はああああ!?!」

『うるさ……』

「ちよつとマネージャーに聞いてくる!!! 場、つないでて詩歌ちゃん」  
 「いいよー、その間歌ってるから」

「え、これどういうこと？」

「先輩はままの妹だった件」

「んなアニメみたいに言うなってさつき」

「双子ということはままと瓜二つって事ですよね」

「妹がマジキチ枠の2期生ってことにびっくりなんだけど私としては。いつからやってたんだか」

ブツつと通話を切ったリーチエ改めフィーは画面から消えて残った歌鐘詩歌が水を  
 得た魚のごとく歌を歌いだしてる。

上位チャット▼

? 5000 \$100,00 \$190,00 \$180,00 \$200,00

?

・リーチエまじ焦りで草

・配信見て凸してくるお姉ちゃんもやべえってw

・これは間違いなく神回

・切り抜き班としてはかどるわ

・?5000 追加チケ代

・とにかく今は姫の歌だああああああああああ

・盛り上がっていくぞおおおおおおおお

・12時間耐久を耐え抜いた俺には何時間でもいけるぞおお

・The princess's song is the best.

・海外ニキきたぞおお

・\$100,000 Hei, princess. It's for the ti

cket.

・姫めっちゃ生き生きしとるわ

・あああ脳がとろけるんじゃあ

・\$190,000

・\$180,000

・\$200,000

・海外ニキの無言スパチャ

リーチエが画面から消えて歌鐘詩歌のびのびと歌ってスパチャが投げ乱れる配信を見ること数十分。ノンストップで歌を歌い続ける歌鐘詩歌は疲れを知らないのか歌いながら次曲を入れる準備をしているのか、歌い終わったらすぐにまた歌いだして。コメントも日本語英語入り乱れてる。

「ただいまー」

「ん、おかえりー。じゃあ次の曲行ってみよー」

「と、その前に！ 詩歌ちゃんの歌を自然な流れで区切れる今のうちに重大発表行っちゃおう」

「んええ、配信切る1分前とかでいいよー、うーたーいーたーいー」

「はいはい、とりあえずさくつというけどぶいちゅーぶ3期生がデビューします。いえーい」

上位チャット▼

?3000

?

・まじかあああああああああ!?

・ネタバレレベルの爆弾をさらつと落とすな

・3期生!?

・?3000 いやったああああああああああ

・公式放送枠で言うようなことをさらっというなw

・まじかよw

・さすがマジキチやるのが違い

・ていうかももう3期生か、早いなー

・てことはT w i t t e rの垢も新設ある???

・探せえ! この世のすべてをそこに置いてきた!!

・どこぞの王は帰ってもろて

・ライダー名とか立ち絵はまだな感じ???

・What the hell is going on?

・ようわからんが海外ニキ困惑してんなー

「んー? えーと、One of these days, the third-ye

ar students will make their debut」

上位チャット▼

?

?1000

・?1000 ネイティブ発音たすかる



・洋楽歌うために鍛えた英語力さすがっす

・実際あれなんていったん？

・近いうち3期生デビューします的な奴

・翻訳ニキさんくす

・2期生がマジキチ枠だろ？ 3期生なに枠だろうな

「まあ3期生のデビューって言ってもメンバー決まっただけで立ち絵も2Dもまだできてないんだけどね」

「あー、今日事務所来てたあの子らね。みんな個性濃そうだったねー、もう歌っていい？」

「まだまだよ詩歌ちゃん。さすがにここでさらつと言うだけって訳にもいかないから明日正式発表あるからそっちも見てね、お昼くらいから配信するから。それとあと発表がもう1つ、2期生でCD出します。歌が詩歌ちゃんて楽曲関連全部私、ジャケット絵がくるみちゃんだよ」

「13曲くらい歌えるかと思ったのに3曲だけって言われたんだよね、このCD」  
「初回だしなんだし収録数はそんなところでしょ」

「売れ行き次第で次出すときの曲数増える……？ みんないっぱい買ってねー」

上位チャット▼

？

?100000 ?50000

・露骨な購買誘導で草

・だが買ってしまふの不可避

・?50000 前金

・前金ニキ沸いたぞw

・?100000 特装版代

・あるとも言つてない特装版へのスパチャw

・どっちにしろ買うしかないわ

・CD買うとして配信も見ねば

・ワールドクリエイトたまにやらかすからな

・やらかしに期待

「今コメントでも出たけど一応特装版の予定もあるからTwitterとか配信で出す情報見ておいてねー。それじゃあ歌に戻ろうか」

「なんかあたしらのデビューさらつと情報解禁されたわね」

「マネちゃんからは何も聞かされてないけどねー」

「ママの方には何か来てないんですか?」

「そもそも具体的な納期すら言われてなかったし、なんにも来てないよ」

よくよく考えたら私今回の仕事の納期聞かされてないんだよね。帰り際に朱音さんに話があるっぽい事言われたけどその話だったのかな？

んー、さすがにものすごい直近で納期設定とかはないだろうし……でもやらかすってコメントあつたしなあ。一応キャラの肉付けに必要な情報は集まったから5日くらいあれば描き込み含め全部終わるとおもうけど。

「ハードルが上がっていつてるきがする……無理、死んじやう」

「強く生きな、さつき」

「……凜ちゃんが静かです」

「凜？ ……寝てるわ、この子」

さつきから元氣印が静かだと思えばソファの背もたれを枕にして寝てた。寝顔も相まって本当に高校生に思えない幼顔になってる。

「夜配信とかがしたら寝落ち配信しそう」

「それ普通に事故配信ですね、怒られる奴です」

「普通にありえそうで怖いんだけど」

配信って配信者が切らない限りは切れないらしいから寝落ちしようものなら起きるまで無音配信垂れ流しって事だよな。凜ちゃんがどのくらい寝入るのかわからないけ

ど今から朝までだとしたら9・10時間は寝るよね。うわあ、実際やったら事故だしやるであろう未来がほぼ確定されてるような状態って……。

「んー、そろそろ1時間なるね」

「まだ、1時間でしょ？ 歌おう」

「歌おうじゃないでしょ、明日CDに入れる曲の収録もあるんだからもう悴切って寝るよ」

「リーチエ先寝ていいよ私まだ歌ってるから」

「先寝ていいっていうけどここ私の悴なんだけど」

「切つとくからいいよ」

上位チャット▼

？

？500000

・おん？

・遠隔で悴切れたか？

・悴主しか悴切れない……まさか

・これわいわゆるあれじゃないかあれあれだよあれあれ

・？500000 我確信せりてえてえ悴なりけり

・おい変なスパチャ飛んだぞ

・内容はともかくこれオフしてね？

・きちやああああああああああああああああ

・オフだああああああああああああああ

・こいつは間違いねえオフの匂いがするぜええええ

「んあ、そういえば言つてなかったねー、今日の配信はリーチエの家でオフコラボだよー」

「お姉ちゃんの部屋入ろうとするの止めるの大変だったよ……」

「だって気になるじゃん、マジキチの双子のお姉ちゃんの部屋」

「無断で入ったら殺されちゃうの私なんだけど。前にパパがノックなしで入ったらブチ切れてたし」

「あー、作業中のリーチエ邪魔した時のあんな感じねー把握はあく」

上位チャット▼

？

?300000 ?500

・あの伝説のブチ切れ回と同じような切れ方するのか

・え、それめっちゃ怖くね？ あの配信マジで怖かったんだけど俺

・?300000 獅子神よ怒りを収めたまえ

・獅子神扱いは草

・命を吸われるぞお

・ネタが古くて通じてるか問題

・怖い事いうなよ

・それよか部屋無断で入ったらブチ切れるお姉ちゃんって何者よ

・部屋無断で入ったら普通ブチ切れるんじゃない?

・ちよつとリーチエブチ切れの切り抜きあるから見てこい

・?500 生きて帰って来いよ

・顔面蒼白になる覚悟してこいよ

「なんか散々な言われようなんですけど」

「だつてくるみちゃん泣きじゃくって相当大変だったもねー。あの時のドスの効いたリーチエの怒号はぶいちゅーぶナンバーワンレベルだもん」

「怒号もなにもクリエイターのクセに甘つちよろい泣き言延々と言ってくるんだよ？」

あんな泣き言ぴーぴーいう暇あったら描き続けろって言っただけなのに」

「……………わ」

「ま、まま? あれ、本当なの???」

「まあ、うん。なんかブチ切れてる時はあつたからあれだと思っただけ、目が血走つてたからかなり切れてたんじゃないかな」

「ひいつ、目が、血走つてた……」

「え、でも怒つたらお姉ちゃんも同じな事言つてたからアシユリーもそんなくらい切れるつてことでしょ？」

「んー、どうかな……怒る時つて頭に血が昇つてるからその時の記憶あんまないから」

「うわあ、これガチで怒らせたらヤバい奴じゃない」

「血走つた目でブチ切れるとか怖すぎなんですけど……紅葉とエリサも寝てない？ これ」

さつきから喋つてないと思つてたらこの2人も寝てるらしい。夜弱すぎじゃない？  
夜配信とかなつたとき大丈夫？

エリサちゃんを見れば人形のように静かに寝入つてるし、紅葉もいつの間にかエリサちゃんの膝を枕にして寝てるし。

これは普通に疲れて寝てるのかそもそも夜は弱いのかわかんないけど。

「昼型夜型完全にわかれたねーこれ」

「未成年組はともかく、紅葉まで寝るつてどういうことよ」

「お嬢とはまた別のお嬢だからねー紅葉は。昔から早寝早起きしてるんだと」

「お嬢様が2人もいる……」

「歴史だけでみるなら紅葉のほうはやばいわよ。創業200年の老舗よあつちは」

「うわあ」

「まあ今は3期生の同期だから気にしてないけど」

「まあ私がブチ切れた話はいいとしてそろそろ本当に粹切ろうねー。明日の昼頃から公式発表で3期生の情報解禁配信あるからリアタイで見れる人もアーカイブの人もチェックしてね。2期生CDの情報も配信で言うと思うからそっちもお願いしまーす。それじゃあエンディング！」

「配信も終わったし、寝ようかって言いたいところだけど」

「これじゃあね、起こす?」

「起きるの? これって」

「ここで雑魚寝でもするー?」

「まあ、ソファでも十分寝れるだろうしそうしましょうか」

なんかよくわかんないけどここで雑魚寝することになったらしい。まあ私もそれで



いいけどね、このソファ寝るには十分なスプリング効いてるし。

ありさちゃんが起動していたPCやモニターを切っている間に座ったまま寝てる子らを横にしたりして準備を整えてから、

「電気消すわよー」

「はいよー」

「ん、おやすみ」

「おやすみ」

フラグ回収というか、やっぱあの部屋で寝ることはなかったね。

## 6 増えていく仕事と企業契約

「ただいまー」

「……おかえり」

「あれ、今日収録とか言っただけだったっけ？」

「14時からだからまだ時間ある……はあ」

「バレたことまだ気にしてるの？」

「そんな簡単に流せないって……」

ありさちゃんの豪邸から帰宅するとなんかすごいしよげたフィーに出迎えられた。昨日のV t u b e r バレの件だと思っただけ。

「まあそれはそうと昨日言っただけ3期生のキャラデザ担当私だから」

「それは昨日マネージャーに電話した時に聞かされてる。というか6人全員まとめてとか初めて聞いたんですけど」

「やっぱり普通ばらけるもんだよねー、こういうの。まあ、全員分の情報は持ってこれてるからあとは描き起こすだけだからいいけど」

「お姉ちゃんならそのくらい余裕か。それよか、朝は何か食べてるの？」

「んにや、まだ食べてない」

近いうちにデビューとかいう先行情報が出た以上早期に描き上げるのにこしたことはないので、朝起きて早々に豪邸からお暇して帰ってきてるから何も食べてない。

「りよーかい、なんか適当に作るから待ってて」

「はい。昨日泊つてた子はもう帰ったの？」

「まだ部屋で寝てるよ……寝させるの大変だったよ」

「……年下？」

「年上の22歳。寝るとき家だと全裸らしいから服脱ごうとするの止めるのに時間食った」

「あー、お疲れ？」

「ありがとう」

ダイニングテーブルに座ってキッチンに入って朝食づくりをさせたフィーの背中を見る。私も作れるけど家庭スキルはフィーの方が高い、私が作るよりフィーが作った方が時間も効率もいい。

ほんやりとこの後描く3期生のキャラデザを思い浮かべる。

凜ちゃんの猫娘、エリサちゃんの雪女、紅葉のカグヤ姫、海里の人魚姫、さつきちゃんの魔女にありさちゃんの天女。

ラフはもう頭の中にあるからあとは描き起こして調整するだけ。

「ふあ、ああ……おはよー、なんかいい匂いするけどご飯だったりするー?」

「おはよー、詩歌……服どこいったの?」

「んー、あー……うん、部屋?」

鈴を転がしたような、耳に入る声心地いい声でしゃべりながらリビングに入ってきた

のは、グラデーシヨンカラーで染められた長髪にキャミソールにショーツという恰好の女性。髪の色もだけど、フィーが言ったように服はどうしたの服は。

「んうー? おお! フィーがいつもいつてた双子のお姉ちゃん? 初めましてーぶい

ちゅーぶ2期生歌鐘詩歌ですー。あ、本名でもいいか、宝鐘天音、22歳ですー」

昨日の配信を聞いたときもだけどなんか喋り方が緩い。服装含め全体的に緩い。

「自己紹介とかどうでもいいから服着ておいで」

「女しかないしいいじゃん別にー」

「朝ごはん抜き」

「着てきまーす」

フィーの朝食を人質にとった? 宣告でおとなしく服を着に戻っていった天音。ス

タイトルがいいから余計緩さがきわだってる。

「昨日はあれでキャミもブラもつけてなかったからね、あれ」

「露出狂なの？」

「裸族らしいよ」

「V tuberになる人って個性濃い人しかいない？」

「逆に言うけど個性なきややってけないって、V tuberなんて」

フライパンから皿に料理を移してテーブルに持ってきたファイ。確かにネットを通じて数多の人間を相手にする以上一定以上の個性がなきや埋没する。ただでさえ個人のV tuberもごまんといえるみたいだし。なんだっけLive2Dだっけ、セルフ受肉できるアプリの名前。

「簡単だけどハムエッグできたよつと。はい、ソース」

「ん、ありがと」

ソースの容器を渡してきたファイは自分には塩コショウをかけて食べてる。よそはこの辺なんか面倒なやり取りがあるらしいけどこちらはそんな面倒な事せずに各々好きに食べてる。

「着てきたよー」

「ん、天音の分それね」

「ありがとー、マヨネーズある？」

「どうやらマヨネーズ派のようで。にしてもマヨネーズは初めて聞いたかも、ハムエツグいろんなのかけて食べる人いるねー。」

「そういえばさー、あの件言ったのー?」

「あ、忘れてた」

「あの件?」

「昨日配信で名前出したけどくるみちゃんの件。今スランプ中らしくて絵が描けないからくるみちゃんにやってもらおう予定だった案件とかどうしようかってなってるんだよね」

「ふーん、スランプねえ」

「そこでお姉ちゃんに依頼しようかって話が出てるんだけど」

「断る」

「だよねー、一応100%断られる前提で聞いてみるとは言ったからいいけど」

「私が受けてる仕事は3期生がらみだけで他は知らないし、他のクリエイターがやる予定だった仕事ならなおさら嫌」

「スランプだかなんだか知らないけどそんなの本人の問題だし当人がどうにかしてほしい。今は3期生以外のことに注力したくないし。」

「そうなるよー、卍ちゃんはどうにかするしかない訳だねー」

「マネージャーにはそう伝えとくね」

「ん、お願い」

頭の中で今日やる作業の予定を組み立てているとスマホに通知が着て相手を見れば朱音さん。送信内容としては本社の方に来れるかというもので、今しがた聞いた話といいなにか都合がいいといふかなんというか。

ファイが出社する14時に合わせていこうかな。

\*\*\* \*\*

「うちと正式に契約雇用を結びませんか？」

「企業所属になれ、と？」

「端的に言えばそうなりますね。今後の展開予定としましてもフリーランスの状態よりも所属していただいた方が都合がいい、というのがありますね」

前回通された大部屋に通された何を切り出されるのかと思えば、なるほど、雇用契約ね……まあ、確定申告とか面倒な奴全部やってくれるのと社会保険は強みか。それにこれといって断る理由もないし、今かかえてる他の案件もないから問題なし。

「通帳も印鑑も持つてきてないですよ」

「通帳はまた後日でも大丈夫、印鑑も電子印鑑を使っていますので大丈夫です。でも、その返答だといふ返事だと思っていいいんですよね？」

「特に断る理由もないので」

「よかったです、色々やってもらいたい仕事があったので助かりました。ひとまずこの書面を読んで頂いてサインをいただければ」

渡された書面には契約内容含めた規約が書かれていて最後にサイン項目がある一般的な契約書類。特に不明点もないし契約内容に含みもおかしな点もない……ん、サインと。

「はい、ありがとうございます。電子印鑑はこのサインで登録させてもらいますね。それではさっそくなんですけど3期生がらみで今会議を開いているので来ていただきたいもいいですか?」

拒否権もこれとってない感じだし黙ってついて行って別の会議室に通されると、ここに来てさつき別れたフィーと天音、それともう一人見知らぬピンク髪の女性。

「だからさつきから何度も言ってるけど断られたから無理だつて」

「そんなあ、無理だよお今そんなすごい絵描けないもん……」

「まあだ言ってるのー? いい加減描かないとどうにもならないよー?」

「だつてえ……」

ああ、なんとなく検討はついた。あのピンク髪の人が画狂くるのみか。

会議室には大きめのテーブルが置いてあってそこにはフィーと天音、マネージャーら



しき人と渦中の人物になってる画狂くるみが座って何やら話してる最中っぽいんだけど、内容は十中八九朝方フィーが言ってたやつだよねこれ。

「氷川さん、アシュリーさん連れてきましたよ。雇用の件も契約済みです」

「りよーかい。どうも初めまして、2期生のマネージャーをしています氷川愛理といいます」

「アシュリー・フレバンスです。それでこれは3期生がらみの話ということでもいいんですか？」

「話が早いようで助かるわ。3期生のデビューティザー動画に使う絵をくるみに描いてもらう予定だったんだけど、この通りスランプで描けないってなっちゃってね。本来なら3期生のキャラデザもくるみと半々でやってもらう話だったんだけど、こんな調子だからアシュリーさんに発注させてもらったわけ」

結果的に6人分のキャラデザは問題なく見通しも立ってるからいいとして、企業案件方面に影響出してるってどうなのよ実際。V t u b e r が本職でその延長戦での話だとしても。

「はあ、そうですね。どっちにしろティザー動画ならもう構図も案もあるのでこっちでやりますけど」

フィー、音桜リーチエの絵を描いたときにT w i t t e r でやったアンケートの結

果、全期生の絵を描く。体のいい具合に使いどころがやってきたというか、この際ティザー動画に盛り込んでしまおうと考えてる。動画制作はフィーに投げるけど。

「ふえ？」

「おー、仕事がはやーい」

「その動画、素材はお姉ちゃんが描くとしても作るの私だよねそれ」

「3期生の絵は今週で初期案あげるとして、そこから擦り合わせで加筆修正するとして素材自体は2週間でいけると思う」

「まあ、動画自体は2、3日あれば出来るからいいけど」

よし、言質は取った。

画狂くるみと氷川さんを置き去りに話を進めていく。どっちにしろ3期生案件なら私の領分だしなんら問題はない。

「ん、じゃあ私帰るから頑張ってるね」

なんか唾然とした顔を向けられたけどここにいる意味がないしそれなら家に帰って絵を仕上げてた方が有意義だし。

さーて家帰って24時間引きこもり作業しーようつと。

## 7 3 徹くらい朝飯前

「……おはよ」

「貫徹3日目おはよ、とりあえずお風呂入つといでよ」

「うん」

よくわからないやりとりをしていた会議から早々に帰って、途中コンビニで買いこんだ食糧から昼食を出してそれを食べてから絵を描き始めてからの記憶は絵を描いていた事ぐらいになってる。いつものごとくどつぷりのめり込んで必要時以外の時間全部使つてひたすらに絵を描いてただけど、一応1、2期生は描きあがったから残るは3期生のみ。

ひとまず、貫徹3日の疲れを取るべくお風呂入つてこよ。

お風呂に湯を張るのも面倒だったからシャワーでさくつとすませてリビングに行けばソファに寝転がってだらけてるファイがいた。

しっかし姉妹そろってだらけたブラトップに短パンつてどうなのよ一体。

「3 徹した成果は？」

「1、2期生は描きあがった。描き上げて構図気に食わないから描きなおしてたら結構かかっちゃった」

「……3期生のテイザーだよね？」

「ああ、どうするのかって言ってなかったけ。スライドショーっぽい感じで1、2期生流して黒抜きシルエットで3期生最後に流そうかなーって」

「あー、なるほど言いたいことはわかった。そのくらいならすぐできるよ」

「さすが2期生のマジキチ枠」

「お姉ちゃんもスカウトされてるしマジキチなのは一緒でしょ」

そこを言われると何も言えないし、そもそもが姉妹そろってマジキチだからなおさら何も言えない。

「あー、それとこの前会社行った時うちで働かないかって言われたから雇用契約してきた」

「フリーランス辞めるんだ」

「多少はメリットの方が勝ったからねー。それに3期生がらみの仕事が増えるとなると掛け持ちになるのはどうもね。できるっちゃできるけど、今までの案件とは毛色が違うし」

「1、2期生は一人ひとりにママがいるからね。なんか用意するとかなくてものがつり

張り付く感じにはならないって聞くし、6人全員ともなればそうもなるよね」

まあそれも本来なら半々で担当わけする予定だったって聞かされたけどね。にしてもさ、3期生っていう自社の顔を新たに作ろうかかってのに手を抜きすぎでしょ。やろうとした手段がブラック企業のそれだし。

V t u b e r ってものが自体がここ最近注目を浴びるようになってそのへん緩くなってるんだらうけど、そのうち首が回らなくなってくるパターン入りそう……あれ、急にデメリットが勝ってきてるような。

「今日はどうするの？ 3 徹明けだけど」

「寝る、一旦頭リセットする」

1、2期生の構図で頭の中埋まつてるから寝て一旦リセットかけてから3期生の絵を描き起こそう……ん？

「どうかした？」

「T w i t t e r の通知と朱音さんからの……ああ、そういえば発表したんだっけ」

これ以上ここにいてもやることも進展もなさそうだし、つてことで早々に帰宅した私と違って本社で3D配信で3期生デビューの発表をしたらしい。

朱音さんから飛んできたLINEによると、私のキャラデザ及び配信で使う2Dその他もろもろがそろい次第詳細日時を決めるとのこと。発表した内容としては3期生デ

ビューの発表と担当絵師の発表、それに合わせてTwitterのアカウントの開設予告などを配信したらしい。

Twitterアカウント作るのはいいけど、名前とかどうするんだろ。

「うん、結構同接もいたから周知もだいぶできたよ」

「どのくらいいたの？」

「10万は超えてたかな。配信した後はトレンド1位だったし、お姉ちゃんがママって言ったあたりからコメント加速して追えなくなっただよね。ほら、この前私の立ち絵描いてたでしょ？ それがあればこれ推測を呼んでっ感じて」

「推測もなにもアーカイブ見て好みの絵柄だったから描いただけなんだけどね」

どっちにしろそれがいい宣伝になってるならいい事だけど。

「アカウント作るって言ってたけど名前とかどうするの？」

「今週に初期案の絵があがるって言ってたからそれ見せて名前決めてもらおうかなーって話に」

「あー、私の絵待ちっ事」

今週って言ったけど早々に仕上げたほうがいい感じかな。納得いくまで調整したかったけどしょうがない。

「初期案でいいなら3日くらいで描けるよ」

「さっすが。ということはまた3徹？」

「だねー、まあ3徹程度で描けるなら安いものよ。予定なら7日かけて描くつもりだったし」

「うげ、お姉ちゃんが7日かけて描くとか恐ろしいんですけど」

「人を化け物みたいに言うけどフィーも同じでしょうに」

フィーも興が乗ったとかでめっちゃ時間かけて作った動画がすぐに億再生いったじゃないの。

「それじゃあ、そろそろ3徹入る前準備で寝るわ」

「んー、おやすみ。また4日目の朝に」

一旦寝て起きたら、大仕事だ。

\*\*\* \*\*

「……」

「おはよ、4日ぶり」

「お、はよ」

「うわ、精魂尽き果てる……とりあえずお風呂行こうねー」

4日目の昼。6人分の立ち絵と各部詳細絵を描き終えてリビングに行くとなぜかフィーにお風呂に連行されて服を脱がされたと思えばシャワーを浴びせられて髪と体

を洗われた。

「む……お姉ちゃん胸大きくなってない？ 前揉んだ時より肉感増してるとうか」

「これ以上胸いらんだけど……」

徐々に目が冴えてきて頭も回りだしたんだけど、お風呂場でフィーに体を洗われるついでに胸をこねくり回されてる状況。そのこねくり回してるフィーの胸も私のと大して変わらないように見えるんだけど、双子だからって体系そこまで似なくてもいいと思っただけど。

「ブラのサイズないならどつかのブランドとコラボして規格作ればいいんじゃない？」

「そう都合よく仕事来ないって。そもそも今企業所属だし」

「あー……うちならどことコラボしてもおかしくないからわかんないよ」

「その時はその時でやるからいいけど」

下も洗おうとするフィーの手を止めて自分で洗ってからお風呂場から出た。さすがに下は自分で洗うから、そんなしよげた顔されても自分で洗うから。

美容院用のドライヤーで髪を手早く乾かして脱衣場に置いてあるバスローブを着てリビングに行けばフィーが冷蔵庫からサンドイッチを出してきた。なんか最近フィーの生活力上がってない？

「冷食カップ麺生活してるって配信で言ったらまともなの食べるって言われたから」



「私らみたいな職種だったら普通の食生活だと思っただけで、一般的じゃないのね」

ちやんと焼かれたパンで作られたサンドイッチを食べつつ、今日の予定を立てる。6人の絵はひとまず完成した。細かい修正も入れたいところだけひとまずは名前決めて用って事で。とりあえずこれ本社に持っていこう……あ、データ送ればいっか。

「とりあえず、全期生の絵は仕上がったから動画の方よろしく」

「んー、任せといて。華々しい動画にするから」

動画用のデータをファイヤーに送って本社にもデータを送って……後は何しようか。

「そういえばお姉ちゃんT w i t t e rのプロフ更新した？」

「してないかも。後でしとく」

この3日ネット関連なにも開いてないからあれからどうなってるかさっぱりわからないんだよね。

まあいいや、寝る前にさくつと更新しますか。

## 8 最終工程とデビューのお話

「アカウント、制限されちゃいました」

私が3徹してファイが2徹して仕上げた動画が公表された翌日、本社に呼び出されて朱音さんから言われたのは3期生のTwitterアカウントが規制されたとの事。どうにもテイザー動画が跳ねに跳ねたらしくその勢いのまま3期生のTwitterアカウントにフォロワーが殺到した結果、スパム業者判定的なものを受けて一時制限を受けたらしい。

「今申請を通してるので近々解除されると思うんですが、アシユリーさんとリーチエさんのアカウントの方は大丈夫でしたか？」

「大丈夫ですよ、フォロワーとアップした動画たちが跳ねまくっただけですね」

YouTubeに挙げた方は再生数がどんどん伸びて行ってるし、キャラ紹介配信の要望コメントが結構沸いてる。

「現状の進み具合としましては3期生の皆さんには初期案、として頂いた絵をもとに名前を決めていただいてTwitterアカウントとYouTubeチャンネルの開設ですね。2D作成は頂いた絵が初期案との事だったので着手はしてません」

「わかりました。3期生の皆からの修正要望とありましたか？ あつたらそれ含めて手直ししたいんですけど」

「絶賛の声と1人の泣き声だけでしたよ」

「泣き声……ああ」

人目には出せないような泣き顔でぎゃんぎゃん泣いてるのを容易に想像できる子が一人思い至った。そこまで喜んでもらえたなら絵師冥利に尽きる。

「はい、3期生からの修正要望はなかったので手直しの方お願いします……言っておいてなんですけど、もう十分に完成しているように見えるんですけど」

「あくまでも名前決めとアカウント用に最低限で仕上げた絵ですし。手直し自体はすぐにできるんで今日ここでやって行きます」

「それなら作業用のPCがありますのでそちら使いますか？」

「これ使うんで大丈夫です」

「わかりました、また後で様子見に来ますね」

今日持つてきてるのは前持つてきたiPadじゃなくてProの方だから楽々作業ができる。朱音さんが別件で会議室から出て行って残った私はとりあえずiPadを起動して絵の修正に入る。

凜ちゃんのアバター、猫人の火猫りんね。さつきちゃんのアバター魔女のアルマリ

ア。エリサちゃんのアバター、雪女の白雪氷花。ありさちゃんのアバター、天女の姫神あまね。紅葉のアバター、カグヤ姫の月城カグヤ。海里のアバター、人魚の汐見マリリン。全員から聞き出したアバターの要望と、ありさちゃんの家泊まった時に見聞きして話して掴んだクセや所作から絵に落とし込める情報を抜き取って描き上げた3期生としての体。9割ほど描き込んで一旦の完成にしているこの絵、朱音さんはこれ以上どこを修正するのかって言うてたけど体や髪、服に装飾品は問題ないこっちは文句なしの完成。この中で唯一未完成なのは目。今からやるのは完全に命を吹き込め切れてない目に命を宿す作業。

「さて、やりますか」

「あ、終わりました？」

「いつからいたんですか」

「ちよつと前からですかね。集中してたので描いてるところ見学してました」

加筆修正が終わって顔をあげれば目の間に朱音さんがいた。いつからいたんだろ、全く気付かなかったんだけど。

「2D制作班控えてますからデータ送ってもらえればすぐにも取り掛かりますよ」

「じゃあ送つときますね……ん、後はお任せで」

「はい、ありがとうございます。それと制限を受けていたアカウントようやく復旧しましたよ、3期生の皆さんも色々ツイートしてるみたいです」

復旧したらしい3期生のアカウントをスマホを起動してみれば確かに復旧してて、何やら色々ツイートしてる。時間帯的に授業を受けているであろう学生組もツイートしてる……アカバレしてもいいよ？

「それと合わせましてデビュー日が決まり次第ツイートキャンペーンということでサイン付き原画イラストのプレゼント企画、段階ごとに配布する形でアイコンを数種類作成していただくとかと。絵も上げていただいたので2D完成の用途が立ち次第納期の方もお知らせしますね」

「わかりました。原画は色紙でアイコンはデジ絵でいいですかね」

「はい、お願いします。それとですね……Vtuberになってみませんか？」

「Vtuberに、ですか」

「今クリエーターの方がVtuberになってゲーム配信やアバターを表示させながら絵を描いたりというのが増えてまして。ぶいちゅーぶ0期生という形でどうかな、と」

「配信なら気が向いたらやってますけど、完全に作業垂れ流し配信で他のライバーがやってるみたいに喋りながらとかやったことないですよ、私」

作業風景見たいとかメイキング見たいとかのコメントが溜まってきたり気晴らしで作業風景流れ流し配信ならしてる。たまに喋るけど他のVtuberのようにコメント呼んで雑談はさんで、なんて器用な事したことがない。いざ描くつてなったら一点集中だし。

「いわゆるお絵かき配信なら流れ流しでもいいと思います、くるみさんとかはしょっちゅうやってますし。喋ったりとか雑談系は短い枠でやったりとかで全混ぜでする必要はないですよ。2期生の皆さんも最初の頃は区分けで配信してましたから」

「んー、仮にやるとしてもアバター問題もありますけど、既にTwitterとかYouTubeのカウントありますけどその辺どうするんです?」

「YouTubeのアカウントは配信用でこちらで新しいの用意する形になりますね」  
「なるほど。アカウント管理は運営側になる感じですか?」

「基本的にはライバーにお任せですが運営側も権限を持つ感じですね。収益も絡むんですが、YouTube側に3割、残りの収益を6:4の割合でライバーと運営で割るようになるので運営も管理権限を持つようになってます」

ふむ、配信で得た収益の40%くらいがこちらに入ってくるわけか。こういうのって大体半々か運営の取り分が多いけどここはそうじゃないのね。そうなつてくるとアシュリーとして持つてるYouTubeアカウントはそのまま問題なし。配信用の

アカウントは作ってくれるからそっち問題なし、と。

「まあ、アカウント関連に関してはそれでいいとしてもアバターはどうするんです？」

「3期生に注力して余力を裂きたくない、とかでしたら外注という形でもいいんですがどうでしょうか、絵に関してのこだわりの強さはこの短期間の付き合いでも十二分に伝わってますので、ご自身でデザインするというのでも全然大丈夫ですよ」

うーん、アカウント問題はほぼ解決でアバターに関してでもどっちでも好きにしている感じで来たか……うーん。

「突然の提案ですし今週末あたりまでに答えを貰えれば」

「わかりました」

「業務連絡はこのくらいですね。この後はどうされますか？」

「描く内容は決まってるので家帰って作業しようかと」

「わかりました、色紙の方は書き損じ分も考えて帰りがけに多めにお渡ししますね」

仕事の追加発注はともかく、V t u b e r かあ。

抵抗感はないっちゃないけど、どうしよっかなー。

## 9 キャラデザと先輩からのアドバイス

「そんな深く考えないでなっっちゃえばいいんじゃない？」

「……軽くない？」

「いいのいいの、面倒なこととはなった後に考えれば。何をどう考えてもならなきや意味ないんだし」

「そんなもんなの？」

「私はそうだったかな。面白そうだったしとりあえずやってみようでオーディション受けてリーチエになったし。お姉ちゃんもそんな考えてないでとりあえずなったらいいよ」

「オーディション受けて落ちた子が聞いたら刺されそう」

フィーがPCで作業する中、私はベッドに座って昨日のVtuber勧誘の話をした。先達というか2期生としてデビューしてるフィーに相談してみたんだけど、なんともまあな返答。

「まあ楽しい世界だよ、ここは。演奏1つ、機材操作1つとつてもレスポンスが返ってくるしリアルタイムで生の声が聴ける。こういう私が見たい次はあれが見たいっていう



違う視点を見せてくれる。V t u b e r 始めたら作業効率多少はさがるかなーと思っただけど始める前よりは上がってるし今のところマイナスはないかな」

「ふーん……」

「まあV t u b e r そのものが嫌いで炎上させてやろうとか他の箱推しの連中が粗探しして難癖付けてきたりとかもあるけどまあクリエイター界限じゃよくあることだしどうってことない」

「うわ何それめんどくさい。炎上させてやろうってクソみたいな根性もだけど。他の箱推し連中の粗探しとか推しに対して泥塗り付けてるってわかんないかな。どこにも沸くもんだねえ。」

「最後のー押しとすれば、新しい世界で見る景色は気持ちいいよ。お姉ちゃん」

『どうされましたか？ 何か作業で問題でもありましたか？』

「そっちはなんも問題ないです。V t u b e r になる件で」

『結論はまだゆつくりで大丈夫ですよ？』

「さつき妹と話して結論出ました。私やります、V t u b e r」

『いいんですね？ 妹さん、リーチェさんと話したなら悪い方の話も聞いていると思

ますけど』

「ええ、大丈夫です。まあ批判だのなんだはこの仕事でなれていますから」

たまにやる作業配信のコメントでちよいちよいアンチくるし、何ならT w i t t e r や p i x i v でもアンチくるしアンチ掲示板もあるし。まあ、そのどれもこれも成果でねじ伏せてきたんだけど。うん、アンチがぐうの音も出せなくなるまでひたすら絵を投稿し続けただけけど……1時間で6枚あげたら自然と静かになっただけ、あの時。

『それではV t u b e r になるという事で話を進ませていただきますね。キャラデザの方はどうするかは決めてますか?』

「キャラデザはこっちでやるから大丈夫です」

『わかりました、デビュー日を含めた今後のスケジュール組み立えますから、決まり次第お伝えします』

「はい、わかりました」

『いいお返事が聞けてよかったです。それでは失礼しますね』

デイスコードでの朱音さんとの通話を終えてゲーミングチェアにもたれかかる。

もとよりこの世界にかかわった時点で多少なりともV t u b e r というにも興味はあつたし、クリエイターとしてもこの世界には惹かれるものがある。私の絵師としての新しい糧にもなるだろうし。とりあえずはフィーが言った新しい世界で見る景色とや

らに期待しよう。

「その前に案件の方から仕上げていきますか」

納期はまだ決まってるけど、まあいいでしょう。ちやちやつと描き上げてキャラデザに入りましょうかね。

\*\*\* \*\*

納期未定の案件はひとまず終わった。アイコンはデフォルメでぱつと描いたし、6人分の色紙も描いた。残すは私のVtubeとしてのキャラデザ。とは言っても具体的にどんな容姿にするかが悩みどころな訳で。通常の人枠でいいのか、それとも人外枠がいいのか。可愛い系がいいのか綺麗系がいいのか、身長や髪の色胸のサイズ……んー、久々にキャラデザで悩んでるかもこれは。これはあれだね、困ったときの妹頼み。「無難にエルフとかでいいんじゃない？ 私ら見た目的には耳伸ばしたらそれっぽい見た目してるんだし。てか珍しいね、描く絵の案聞きに来るの」

「今までやってきたのと勝手が違うしね、先駆者がいるなら聞いた方がいいかなって」

「まあ多少特殊ではあると思うけどさ、新しいの描き起こさなくてもいつも描いてる奴でいいんじゃない？」

「一瞬それも考えたんだけど、なんか違うかなって」

看板娘でいつもというか、同人出すときにいつも載せてるキャラ。キャラデザは最初

はこれでいいかとも思ったけど、キャラ名もつけて今まで描いてきた分今更それに私が成り代わるというのはなんだかもすごい違和感が湧いてきた。

「名前も付けてそれなりに動かしてきたキャラをV t u b e rのアバターに使うつてのはねー」

「それで新キャラつてわけか」

「そういうこと。んー、とりあえずエルフで描いてみるかな」

ふむ、エルフ。一般的、というか大体のイメージは森や精霊と一緒に住んだり人里から遠く離れたところに住んでるなどなど。後は美形でスレンダーな体系だったり狩猟をしたり。だからといってそれを踏襲するだけなのはつまらない。せつかくV t u b e rとして活動するのにありふれたエルフで済ませるなんてもつたいたい。

そこに今の私の肩書もプラスして……うん、いい感じに構図が浮かんできた。さっそうく部屋戻って描き起こそうかな。

「今日の夕飯カレーの予定だから集中しすぎないでね」

「はーい」

なんか最近フィーの家事力というか女子力というか、なんか高い気がする。私もカレーくらいなら作れるけどさ。

まあいいや、今はキャラデザに集中しますかね。

## 10 体づくりと助け船

「そういえばお姉ちゃん珍しく夕飯時に下に降りてきたけど描いてなかったの？」

「描いてたよ？」

フィーが言うように私は今描く手を止めてリビングで夕飯を食べてる。作業に入る前にフィーが言っていたカレー、それとサラダに唐揚げ。

「……描き上げたとかいわないよね？」

「さすがにそれないって。装飾とかタトゥーのデザインしたただけだから」

「エルフなのにタトゥーいれるんだ」

「衣装だけじゃなんかものさみしいからね。装飾と一緒に入れちゃおうかなって思ってた」

とはいってもがつつり彫り込むようなものじゃなくてアクセント程度のものだけだ。実際このタトゥーのデザインが一番面倒だったりするからキャラデザする前に描き始めたってのはある。

あまり凝ったものをデザインしてもくどくなるし、なんなら入れ墨としての悪印象を抱かせるしでいい具合のデザインを見繕うのが面倒つてもあって先にやった。

前に何回かデザインしたのもあったからそれをもとにデザインしてるからそこまで時間はかからなかったけれども。

「まあこの短時間で描き上げてないってのもだけど、デザイン工程までしか進んでないってのが怖いよね。普段ならラフくらいは終わらせてるでしょ？」

「まあ締め日は特に指定されてないし時間はあるからってのもあるけど、自分の分身になるんだし描き込みたいってのもある」

「完成絵を見たいような見たくないような……」

「ずいぶん言いようされてるんですけど」

「だってねえ？　じっくり時間かけてお姉ちゃんが絵描くとかどんな化け物が生み出されることか」

「なんか前にも似たような事言ってたきもするけど、加減する気ないしね」

あの子らの立ち絵も手を抜いたつもりは一切ない、配信者として十分に渡り歩いてけるものを描きあげてる。それと比べて私の立ち位置としては純粋な配信者ではなく企業所属の絵師かつ、3期生のママ。この立ち位置にいる私があの子らと同じ絵柄でいいのかといわれれば言いわけもなく、私の匂いは残すけれども全部違う絵柄ではなくがつつり私の絵柄を出していくものにする。

3期生の絵柄と乖離させて差別化っていう名目と産みの親ってすごい方が自慢でき

るでしょ？ それにこれは私が配信者をしている間の体になるんだから徹底的にやる。それもあつてあれこれこだわって描いてるだけなんだけどね。

「映像班が泣かなきゃいいけどねー」

「まあどうにかなるでしょ」

「まあそうだよねえ……お姉ちゃんってモデリングできるっけ？」

「一応できるけど本職には劣ると思うけどどうして？」

「あれだつたらお姉ちゃんがモデリングまでやっちゃえばいいんじゃないって思つて」

「まあ、クリスタのややこしい操作と比べるわけじゃないけどほぼほぼ専門外だからね  
モデリングは。さすがにやんないかな」

やりこめば出来るとは思うけどやりこんでまで取得する気も起きなかったしね。

確かに絵を描くことに関してはある程度収めてきたつもりだけど、モデリングはなんとなく肌にあわなかったというか、毛色が違ったというか。

結果的に自分で満足いくものを作れなかったという時点でダメだったんだと思う。

「んう？」

「仕事？」

フィーのスマホにディスコードに来た通知。普段なら仕事かなーとはおもうけど、配信がらみかな？

「今夜コラボしよーだつてさ」

「コラボって当日決まるもんだっけ」

「んー、前日とかもあるけど大体数日前とかだね。大型とかだと1か月前から準備したりとかもあるけど」

「そんな前から準備つて一体なにやるの?」

「対戦ゲーム系とかの練習期間とかかな、まあものによるけどコラボ内容によりけりつて感じだね。箱内ならいいけど外箱とのコラボだったらまだいろいろある感じ」

「うわあ、コラボめんどくさそう……」

「自主的コラボオンリーならいいけど、企業所属ともなれば運営主導のとか案件とかもあるからねー。やらないってわけにはいかないけど、お姉ちゃんの場合はどうなんだろうね。Vtubeとはいえ専属絵師枠での所属だし」

「3期生デビューの1か月後にデビューしてコラボ配信する、くらいしか今のところ聞いてないからそのへんはなんとも。まあやるならやるで何かしらあるでしょ」

「んあ……」

朝だあ……あれ、寝落ちしてる……。昨日夕飯食べてお風呂入って作業の続きをして



……ん、作業データはちゃんと保存出来てるから問題なし、と。寝落ちとかするの結構久しぶりな気もするけどそんなに疲れ溜まってたかな。まあ3徹繰り返してたつていう思い当たる原因はあるんだけども。

とりあえず今の時間は何時かなつと……朝の6時。二度寝するか、作業の続きをするか微妙に悩む時間だけでもどうしようか。

「装飾デザインとタトゥーのデザインは完成してる。肝心のキャラデザもざっくりと構想はできてるから描き起こして選別するだけだしそこまでの急ぎつてわけでもない、そうなると二度寝しても問題ないかなー」

思い立ったらということでも保存状況を確認するために起動したパソコンをシャットダウンしてベッドに。マットレスに掛布団、枕含めベッド一式で3桁万円ともなれば寝入り具合は言うまでもなく、意識はすぐ夢の世界に飛んだ。

\*\*\* \*\*

「……」

二度寝からの目覚め。ぼんやりとする頭を働かせながらベッドから起きてスマホを見れば、11時過ぎ。これといった通知も来てない

のそりと体を起こして低稼働の頭をどうにか働かせつつ部屋から出て下に降りると、

「あ、お邪魔してます」

「……んあ」

ソファになぜか朱音さんがいた。その対面にはフィーも座って一緒にパンケーキを食べてた……え、なにそれ作ったの？

「お姉ちゃんの方も冷蔵庫入れてるよ。チョコソースとかはちみつは好きな量かけてね」

「普段の配信と作業量を見てる分、リーチェさんが作ったのはいまだに信じられないです」

「生活能力なさすぎってコメントが最近増えてきたから配分割り振って料理してるだけなんだけどね。料理してる証拠の写真とか動画上げたらなんか騒がれたりしたけど」

たまに作った後に写真撮ったりしたのはそれか。

冷蔵庫を開けて中を見れば二段に積まれたパンケーキ。普通に焼き上げたパンケーキかと思っただけど、店とかで見るメレンゲを大量に入れて作るタイプっぽい。うちにハンドミキサーなんて物あったんだ……。

冷蔵庫から出してレンジで温めてチョコソースをかけてソファへ持っていく……、改めて考えてもなんで朱音さんがうちについてフィーが作ったであろうパンケーキを食べてるんだろうか。

「今後の活動方針とマネージャー変更をお伝えによらせてもらった感じですね」

「方針はともかくマネージャー変更ですか」

「現段階では私の受け持ちが3期生とアシユリーさんなんですけど、来週からリーチエっさんも私が見ることになりまして。リーチエさんとアシユリーさんが共同で何かしらする機会も多くなるのなら一括りで見た方がいいだろうと言う事が会議で決まった感じですね」

「他の2期生はそのまま氷川さんが？」

「ですね、そこは現状維持です。ですがくるみさんの件もありますので変動あり、という感じで一時保留の意味合いの方が強いですね」

「スランプ入って配信のメンタルも落差激しくなってきたしね、くるみちゃん。会議でも休止させて様子見たらどうか、って言われてるらしいよ」

休止、ねえ。あの子のスランプ具合で休止なんてさせたら二度と這い上がれないどころか引退まで行くと思うんだけどその辺どう考えてるんだろ。

「あれで休止とかさせたら引退まで行きそうだからさせない方がいいとは思うんだけど」

案の定というかフィーも同じ考えだったようで。

まあこの考えに行きついてるのがその会議で案を出した人間含めどれだけいるかって話なんだけど。

「まあそのあたりは氷川さんとくるみさんが結論を出すと思うので一旦置いておく  
ましよう」

「フィーも同じ考えって事でいいの？」

「うん」

クリエイターとしては乗り越えるのもそこで潰れるのも本人次第、とは思ってるんだ  
ろうけど同期としてはそうでもないんでしょうね。さつきから他人事の用には喋って  
るけど表情も声もまるで正反対。

最近で言えば時折話題が出るたびに抱えてる仕事のフォローを私にできないか聞い  
てくるときも、2期生の話になった時の表情や声色がかなり嬉しそうで上機嫌だっ  
り。

朱音さんが私ら2人のマネージャーになったのも考えすぎでなければ画狂くるみの  
フォロー、もしくはスランプ脱出のきっかけとしての役割を私に担えないかの打算をす  
るのも含まれてると思ってる。

「……はあ」

「……お姉ちゃん？」

「締め切り近い順にリストアップして持ってきて」

「……いいの？ あんなに嫌だって言ってたのに」

「嫌も何も、もうどうにも首が回らないんでしょ」

そう切り返してみれば信じられないものを見る目で見てくるフィー、どこかしら安堵した顔をしてる朱音さんがいた。

私の考えは遠からず当たってたのかな、これは。

まあそれはそうとフィー、お前そんな事いう奴じゃないだろうって顔で見てくるのやめな？ 確かに普段の私なら絶対に言わない事だけどさ。

「それではお言葉に甘えてさせてもらいますね」

それからの朱音さんの行動は早く、パンケーキを食べ終わると生き生きとした顔で帰っていった。しばらくしたら朱音さんから私宛にリストアップされたものがメールで届くと思う。

締め切り近い順とは言っただけど一体何件くるのやら。

「あ、そうそう。フィー、朱音さんに言い忘れたけど画狂くるみに言っついて、私を追いかけるのはやめなさいって」

\*\*\* \*\*

「それで？ 菓子折りを持ってきた、と」

「うあ……、あ、うん」

目の前には限界化したヲタクと化した画狂くるみがいる。そのとなりにはうちに連

れてきたフィーとなぜかいる歌鐘詩歌。どうせ暇だとか面白そうとかでついてきたんだらうけど。

フィーからざっくり連れてくるにあたっての経緯は聞いたけど、私があればから画狂くその抱えていた仕事の約9割が朱音さんから送られてきてそれを全て処理し終えたのがその4日後。画狂くるみが手元に残った仕事を終えたのがその5日後、つまり今日な訳で。描き終えた絵を納品するなりフィーに連絡を取って菓子折りを持ってうちに来た、が一連の流れ。

「なんかめちやくちや挙動不審なんだけど」

「そりやめちやくちや意識してる相手に仕事のしりぬぐいしてもらった挙句に絵柄も完璧に模倣されたらねえ」

「うあああああつそこまではつきり言わなくてもいいじゃん!!!」

「ひと様の家でうるさいよー、亓ちゃん」

リビングを通してソファに座って話してただけで目の前にいた画狂くるみが発狂した。うわあ、目の前で見ると画面越しと比べてかなり生々しい。

「だって、だってだってだってええええええっ!!! あんなに普段から意識しまくってる上にプライド捨ててフォロワー頼んだけど一回断られどうしようとか思ってたらしれつと抱えてた仕事のほぼほ全部やつてもらって絵柄も完全模倣されたとかもううあああ

あああああッ!!」

「元気だねえ、くるみちゃん」

「これ元気とかいう奴じゃないでしょ」

「これも一種の個性って思ってた見たら微笑ましいものだよ、お姉ちゃん」

「これを微笑ましいとか普段からどれだけ見慣れてるのよ一体。」

「それよりも、他にも言うことあるでしょくるみちゃん」

「……ありがとう」

髪をかき乱しながら発狂していた画狂くるみがフィーの一言でピタリと動きを止め、若干瞳孔が開いてる目を私に向けながら一言つぶやいた。

まあそれも苦々しい顔をしながらだけでも。

「今回は朱音さんとフィーの顔に免じてフォローに入ったけど、今後はスケジュールの管理どうにかしないとまた同じことになるわよ」

「そのへんは大丈夫だよー氷川さんが卍ちゃんの仕事一時管理することになったからねー。今までみたいに勝手に受けることもできなくなったからもう大丈夫だよー」

そもそもただで、企業所属の人間が事務所通さずに仕事受けてパンクしてる事象がおかしいんだけどね。まあ氷川さんが一時管理するみたいだし大丈夫なのかな？

「そう、それならまあいいけど。それで？ 他に何かあるんでしょ？」

「あ、わかっちゃおう?」

「うちにくるだけならフィーだけで事足りるでしょ、わざわざ3人で来なくても」

「だよねー、まあバレたならいつか。今度2期生で出すアルバムにつける特典ステッカーとカバーイラストの絵を描いて欲しいなーって」

そう切り出した詩歌の隣を見れば案の定血涙を流さんばかりに目を見開いて、というか瞳孔も開いてこつちをみてる画狂くるみがあった。

いや、あんた今仕事受けても絵が描けないなら意味ないでしょうが。

「まあ別にいいけど。私に言う前に朱音さんに話は通してるんでしょ、どうせ」

「うんー、今のところ公式追加で発注する仕事はないから本人から許可もらえるならいいよーって」

投げやりというか私に扱いを心得ているというか。3期生がらみの絵も早々に仕上げてるし手が空いてるといえばあいてるから引き受けても問題はない。

「受けるのはいいいけど納期は?」

「できれば来月中かなー。数量限定でサイン付きにする予定だから」

「仕上がったステッカーにサイン描いて封入して発送、になるからね。発送予定期間の目安もそれで決めるみたいだから」

サインを描いて封入、ねえ。どんだけ書くのか知らないけどそれなりの量書くのよね



きつと。

「あとそれとね、今日うちでオフコラボしていい？」

菓子折り持ってきた事よりそっちが本命でしょ絶対。

## 11 その後の話とかいろいろ

私が3期生のあれやこれやを引き受けて早いもので3か月、あの子らの初配信まで1か月を切った頃。

一気に時期が飛んだような気もするけど、これといって特筆することは起きてないというのもある。3期生がらみでは最初の1か月くらいしか仕事としては携わってない、というのも朱音さんから公式で回される案件はほぼその日のうちに仕上げるってのを繰り返してただけど、まあそうなると本来予定していた納期を大幅に短縮、つまるところ手が空いた。

公式で用意する分は納品し終えた以上は何もすることがないしさあどうしよう、となっていたところ3期生の子らに誘われて遊びに行ったり泊まったりと親睦を深めたり、うちでオフコラボをするにあたって泊まって行って以来何かと関わりの多くなった2期生組とも遊んだりと有意義な時間は過ごした。

ああそれと、2期生で出すアルバムはフィーと天音が楽しくなっちゃったせいで発売予定日が伸びたらしい。収録予定曲数も大幅に変更になったとか言ってたっけ。

「あれ、仕事絵もう終わったって言ってなかったっけ？」

「んー？ ああ、boothで売る奴」

リビングでiPadを手に絵を描いていたら部屋から出てきたらしいフィーがやってきた。

ワールドクリエイイトがらみの仕事は今のところなし、手空きになって暇だしなんかしようかなーと思いつつネットとかTwitter漁ってたら、この3か月で描いたぶいちゅーぶメンバーの同人誌欲しいみたいなのを見かけたからそれじゃあ作るか、なノリで着手してる。

今まで描いたものを掲載するのと描き下ろしで載せる分を今描いてるんだけども、R18描いていいのか許可とってないなーとか考えながらラフを描いたらフィーが来た。

「それはそうとき、企業所属が所属タレントの同人描いて売っていいと思う？」

「さすがに許可もらわないと無理かなあ。私らや1期生のママ達も裏で許可は取ってるみたいだし」

やっぱ許可いるのかあ。まあ言ったら簡単に許可くれそうだからいいけど。

「許可以前にR18で描く気なの？」

「んー、それでもいいんだけど。軽く検索掛けたらそれなりに描かれてるから描く分には問題なさそうなんだけど、この手合いつてガチ恋勢とかいるでしょ？ 理性的な奴と

害悪タイプの2種類」

「あー、まあいるね。いるのは嬉しいんだけど後者の方はねえ……、アンチになったり批判的コメントとか見つけたら嘸みつきに行ったりで荒れる原因だからね」

「その厄介連中が騒ぎそうだからどうしようよっかって検討中なのよ」

「ちなみにどんな構図で描く気なの？」

「ぶいちゅーぶメンバー同士で絡ませる定番系、単独系、モブと絡ませるの3パターンが候補」

「んー、安全に行くならモブはなしじゃない？」

「だよー」

事前調査で検索掛けた時もモブとの絡みの絵は低評価物が多かったし。あと同人エロの大半ともいえる凌辱系が多かった。

同人誌なんて各個人の性癖の塊みたいなものだからとやかく言うつもりはないけど、そんなに好きか凌辱がとは思う。

「……ちなみにだけどき、そのラフ絵リーチエに見えるんだけど」

「うん、天音と絡ませようかなーって。フィーが受けね」

「なんで私受けなの??？」

「逆になんで受けじゃないと思ったの？」

姉の私が言うのもなんだけどフィーは完全に受けだと思っ。仕事してるときはSっぱいけど普段はおつとりのんびりしてるし。

納得いかないって顔をしてるフィーは置いといてラフを描き進めるとしよう。

\*\*\* \*\*

『販売自体は大丈夫ですよ。うちのboothで販売する場合はチェック入りますけど、アシユリーさん個人での場合はそのまま大丈夫です』

許可取りのデイスコを送ったらすんなりと許可はもらえた。今回出す予定のは私のboothで出すからチェックとかもなし。念のためラフも送ってみたけどあのくらいなら問題ないらしい。当然といえば当然だけど3期生はデビューしてないから出さならデビュー後、もしくはデビュー記念グッズとして公式枠で出すってな感じ。

はだけた格好をした詩歌が同じくはだけたりーチェをベッドに押し倒してこつちを見てる構図。R18とかR15くらいには抑えたつてもあるけど、まあこの程度をラインとしてあれこれ描いて行こうかな。

画狂くるみはエロかわいそうな路線でいつか。

「んー」

「どうしたの？ 私が受けの絵描くの辞める気になった？」

「それはないんだけどさ、1期生のイラスト漁ってるんだけど健全系が多いんだよねえ。」

R系もあるにはあるんだけど露出がそんなにない奴ばっかで」

「まあ、コンセプトが超新星、ざっくり言えばアイドル色が強いからそうなるのもおかしくはないんだよね」

へえ、アイドルねえ。3期生のテイザーに描き下ろした時は3面図とか資料だけ見たからそこまでは見てなかったわ。

「アイドルかあ……まあそれでもやりようはあるか」

「何思い付いたの？」

「水着」

「あー」

「デザインにもよるけど水着ならハードル低く露出させられるから便利っちゃ便利。アイドル色強いなら水着着せても問題ないだろうって打算もあるけど。」

「フィーは今日配信とかないの？」

「今日は作業デーで休みだから平気」

「作業？」

「収録する曲増えたからその録音とかねー」

「ああ、そういうええ増えたんだっけ」

「元々決まってた奴収録してたらこれやこれやアイディア出てきてさ、じゃあああして

こうしてつてなつて増えちゃった」

「3曲だけつて言われてたのに増やせたんだ」

ありさちゃんの家で見た配信で3曲だけつて言つてたのは覚えてる。

「天音が駄々こねた結果かな。本当ならCD出してその後の配信で連続リリースの発表の手筈だったんだけど、くるみちゃんの状態とかもあるし出せるなら出しちゃおうかって」

「まあ今の状態じゃ一枚の絵を仕上げるだけでも1か月以上はかかるでしょうね」

前に私が引き受けずに残した仕事はほぼ仕上げ状態のものだけだったから終わったようなものだし、一から仕上げるとなればそれなりの期間はいると思う。

かかえていた仕事がいったんは全部片付いただけだしね、その後の身の振り方は本人次第ということだ。

「うん、絵に関しては勤が戻るまで仕事は見合わせでゲームや雑談枠するみたい。前みたいに描けるようになるのは本人次第だろうけど」

「てつきりどうにかしてつて言つてくるもんだと思つてたけど」

「それも考えたけど絶対断るでしょ」

「うん。どうして描けないのか、どうすれば描けるのか程度自力で導き出してもらわな  
いよ」

「だよー。後はくるみちゃん次第だね」

まあ、その当の本人からディスクがめちやくちや来てるのは言わないでおこうかな。



## 12 朱音さんと進捗会議

boothで売りに出す公式……許諾得てるし公式でいいか。公式同人誌に着手してる時の事、朱音さんからデイスコが飛んできて何か仕事が来たのかと思えばこの前描き上げて提出した3期生の絵のLive2D化が終わったとの連絡。そしてその出来上がったLive2Dの出来具合の監修の依頼も一緒に来た。

当然というか断ったけども。

一般的、というかVtubeのLive2Dはそれを専門にしてる人に発注するのが主だつてるけどもワールドクリエイトはLive2D班という形で専門の部署を抱えている。フィーに聞いた限りじゃライバーと随時すり合わせをして調整をしているらしい。そこまでやつてるなら私の監修なんていらなと思うんだけど。

「これ私の監修とかいるんですか？」

ワールドクリエイト本社、その会議室に朱音さんという。

「あのアシユリーの手がけたデザインをLive2D化した以上本人からの評価が欲しい、との事で。クリエイターの性というやつですかね」

「あー」

業界あるある、というかクリエイターの習性的な奴か。となると監修は口実で実際には仕上げた作品に対しての評価希望、かな。

「それでこちらがそのLive2Dですね」

朱音さんが見せてきたiPadには3期生のLive2Dが映されてる。トラックキングで動かしてるのとは違ってTwitterとかに今回こういう仕事しましたって上がってるタイプの奴。

一人30秒ほどのgif動画が全員分再生されたところで、

「モーションとしてはこんな具合ですね。表情差分もこういった具合の仕上がりになってます」

それぞれの特徴をとらえた表情に手のモーション、服や胸の揺れも申し分ない。

「うん、いいんじゃないですか？ 顔を動かした時の髪の揺れ具合や目の開き具合、体が揺れる際の服の動きやアクセサリーの揺れもいい感じ。胸の揺れ具合も程よい感じで違和感もないですし私的には問題ないです」

動いた時を想定して描いた通りに動いてる。後はあの子らがこの体を使って思うように配信をするだけ。

「これはもう3期生全員に共有はしてるんですか？」

「Live2Dができたことは知らせてありますよ。データ共有は今日の監修モドキが

つつがなく終わり次第ですね」

あ、モドキって言っちゃうんですね。

「3期生もデビュー配信まで1か月を切ったので機材設定や操作を覚えてもらってるのでそこに追加でLive2D操作も加わる感じですね。前に言ったTwitterのリツイートキャンペーンも始まってますし。それとですね、以前提出してもらったアシュリーさんの配信用の体も順調に進んでいますよ」

あー、0期生としてぶいちゅーぶのVtuberになるにあたって先月描き下ろして提出した例の絵は順調に進んでるらしい。

私用の絵を描き下ろす工程であれこれ資料を見漁った過程で仕入れた情報を元に、3期生の3面図に追加を描き下ろしたりもしたけど、まあ軽いテコ入れみたいな感じで。

「アシュリーさんのデビュー配信も楽しみです。予定としては3期生のコラボ解禁日にデビュー配信を盛り込もうかと。3期生の皆さんには当日公式配信ということで集まっていたいただいてドッキリ形式で発表兼初配信の流れで」

「なるほど」

「わかりました、それではその方向で進めますね。少し整理しましょうか、まず3期生ですが来月のデビューに向けて機材操作にLive2D操作の練習、リツイートキャンペーンが始まって今のところ順調に進んでいます。アシュリーさんの予定としては3期

生コラボ解禁日に初配信予定で、Live2Dも鋭意製作中……現在進捗はこんな具合ですわね」

デビュー1か月前ともなれば準備もかなり進んでやることといえば本人たちの配信準備くらいにまで落ち着いてる。残ってるものといえば私の配信環境……フィーが今私が使ってる環境をV配信用にいじるとかいつてたから問題なし。Live2Dができ次第私の方も前準備系は全部終わる。

「そういえば妹さんから3期生のデビュー期間の長さについてないか聞いてますか？」

「これといって特には。やっぱ長いんですかこれ、発表から3か月くらいって」

「ですね。通常通りいくならデビュー告知を打った翌週くらいに初配信ですね」

「告知からだいぶ経ってますもんね」

まあ内心なんか初配信まで長いような気もしてたんだけど、やっぱり長かったんだ3期生。

「後々で知ることになると思うので先にお伝えしておこうと思ひまして、皆さんからも許可は頂いてますし」

「許可ですか」

「はい、アシュリーさんは転生というのは知ってますか？」

「一応。流れ的に3期生は転生組って事ですか？」

この期間中Vに関してあれこれ調べてよく出てきたものの一つ、転生。今回でいえば3期生としてデビューする前に活動していた事があるのを指すんだけどこれもこれも善し悪しがあるようで。

円満卒業、引退をしているのならいいけども炎上やアンチのせいで辞めたとかだと前世を特定された際に、その時のアンチがまた粘着を始めたりと厄介ごとが起こったりするらしい。まあアンチじゃなくても前世ネタでいじってくる厄介勢もいるみたいだし、要約すればめんどくさい。

「全員、という事ではないんですが海里さんと紅葉さんの2人ですね。個人勢からうちで転生の形になります。ありささんとエリサさん、凜さんとさつきは前世なしのうちでのデビューが初ですので配信経験がない分機材操作や配信環境の設定、非公開でのデモ配信など、準備に時間を割いてる感じですね」

他4人が前世なし、紅葉と海里が前世ありか。2人がどんな経緯で前世を持つてうちに来たのかはいいとして。

「順調なんですか?」

「今のところ問題なく進んでいますよ。OBSやキャプチャーの面倒な設定もちゃんと出来てる……まあ、大丈夫でしょう」

「なんですかその不安になる間は」

「凜さんが中々のボンで」

「あー、凜ちゃんか」

「元気なのはいい事なんですけどトラッキングが追い付かないレベルで動いたりとかは辞めて欲しいところですね」

あの元気っこ、パソコンの前でもそんな感じなのか。いつか放送事故とか起こしそう。

「まあその程度の問題、とも言える内容ですので順調といった具合ですね。ああそれと実はぶちちゅーぶ4期生選考始まってるんですよ」

「今公募してましたっけ？」

朱音さんがさらつと言った4期生選考。Twitterとかサイトでも公募のしてるようなことは言っただけでなかったような気がするんだけども。

「それに関してですが、うちとしては3期生の公募をかけたあたりで応募数と倍率、支えとなるファン層の比率しだいでは定期公募から常時に切り替える考えだったのもあって今は常時に切り替えてる感じですね。ちなみに今の倍率聞きますか？」

「そんなもったえぶるレベルなんですか？」

「3期生の頃が600倍、4期生に関しては現段階で900倍ですね。付けられるマネージャーも限られてるので5人定員でこんな感じですよ」

「9000ですか……9000!？」

「いい反応ですねえ。2期生の皆さんがイイ感じに狂っ、盛り上げてくれたおかげもあつて評判は上々です」

今この人狂ったって言いかけたよね。まあ2期生の3人は各々イカレてるのは間違いないけれども。

にしても9000か。

「現段階、ということはまだ倍率は増える感じですか？」

「ですね、まだまだ倍率は増える見込みではありませんよ」

「うへえ、その倍率がヤバイ4期生のコンセプトって決まってるんですか？」

「今のところ1期生の超新星、2期生のハイスペック、3期生のファンタジーと来てるので路線を変えるかどうかの決議中ですね」

聞いたいてなんだけど3期生ってファンタジーなんだ。まあ、獣人に魔女、人魚に天女と雪女、かぐや姫とファンタジーなキャラがそろってるしそうもなるか。

「と、まあ4期生の構想はこんな具合ですね」

「で、その4期生のV体を描く絵師は？」

「ちゃんと一人ひとり依頼を出しますよ。アシユリーさんへの依頼はほぼイレギュラーに近いものでしたし」

イレギュラーとは言え当初予定も私に3人依頼出すつもりだったって言ってたような気もするけど。

「4期生の話はこの辺にしときますか。本来の目的からもうだいぶそれてますし」

「その本来の目的自体もモドキですし今更感もありますけど」

「ですねえ、長々となりましたけど本日の要件はこれで終わりになります、お疲れ様でした」

さて、外出の仕事もこれで終わったことだし家に帰りますかね。



## 13 とある昼下がりの雑談配信

『あ、あー。音平気?』

・いいよー

・ゲリラきちやああああああ

・ままあああ俺だああああああ

・認知してくれえええええ

・なんか沸いてて草

・実際ママだもんなしやーない

家に帰ってきて何しようか、となったはいいものこれといって仕事絵もないしどうするか……となっていた所でふと思った。

久々にゲリラするか、と。

『まあ大体察してると思うけどゲリラだからこれといって何にもやること決めてないんだよね』

・大体いつもそう

・基本手元か作業雑談だもんな

・作業集中して無音になるまでが流れ

・3期生の事聞きたーい

・そういえば3期生のママ就任おめでとー

・テイザーの動画もマジでやばかったわ

・さすがマジキチ

・ぶいメンには会った？

『3期生の話ねー。そうは言っても今出してる内容以外言えることないけど』

順次開示の形式で発表してるから改めて言えるようなことは何も無いんだよね。  
んー何を話そうかな。

ぶいメン……ああぶいちゅーぶのメンバーか。

『2期生とは全員会ったよー』

・おー

・生で会う卍はどうやったよ

・ついに会ってしまったのか卍と

『いやーうん、あれはすごかったね。うん』

・おい言葉なくしてるぞ

・卍のやつ一体何やったんだよw

・ 本人目の前にして限界化したか？ w w w w w

・ 発狂してるとき嫉妬心もあるけど明らかにガチ恋の匂いしてんもんな w w w w

ああ、リスナーにもにじみ出てる気配はバレバレなのね。この前うちに来た時も限界化してたっけ。瞳孔が開き気味で狂気を感じたけども。

『まあこの話は置いといて。さっきもあつたけどデザイナー動画どうだった？』

・ 逃げたな

・ 卍から逃げるな

・ この前上がった新しい奴マジでやばかった

・ Live 2Dであれが動くんだよな

・ 配信まで楽しみ

前にフィーとの合作でやった3期生のデビュートイザー動画。1、2期生はそのまま3期生はシルエットで仕上げた第1弾。そして、デビュートか月前に合わせて第2弾としてシルエットだった3期生を映し出したものを公開した。

それに合わせて3期生の Twitter アイコンもシルエットのものから通常のイラストに切り替わったりする。

『デザイナーでもお披露目した3期生の細かいデザインや小話は各枠で言うだろうからここでは言わないとして。何も考えないで粹たてたもんだから話すネタなくなつたんだ

けど』

・唐突のネタ切れ発言

・まあ雑談系自体がSSR枠だもんな

・普段が絵を描く色塗るその流れで無言配信やし

・喋ってる枠のリアタイ初めてなんやが

・激レアやぞ喋ってるの

・仕事絵の息抜きで絵を描くとか何言ってるのかわからんアーカイブはようあるでな

・神絵師の口癖「絵の息抜きに絵を描く」

『口癖と言われても実際息抜きで描いてるしなあ。気分転換にもなるし』

・ひえ

・これが神絵師共通の間隔感覚である

・恐ろしいで

・一応丑も息抜きで違う絵描いてたりするしなあ

・息抜きにならずにブチ切れてる時もあるけどな

・それメン限のアーカイブ行ったから見れないんだよな

『配信でどれだけ切れてんのよあの子。今のところ弱ってる所と限界化してる所以外まともな所みたことないんだけど』

・俺も見たことない

・切り抜きで貴重な正気卍だったのでなら見たことある

・古参でも初期の頃しか正常らしき状態は見えないな

・普通に話してるはずなのににじみ出る十二かがあるんだよな

この短い付き合いでも画狂くるみがいかにヤバイのかがわかる。掘り下げたら詩歌もヤバイんだろうけどさ。

『まああの子の話はこの辺で』

・卍から逃げるな

・息をするように卍から逃げる定期

・卍はかなしき獣なんだよ

これ以上掘り下げたら面倒そうだったから切ったら逃げるなどか言われたんだけど。掘り下げたくないんだから仕方ないじゃないの。

『え、だつて面倒くさい』

・いいやがったw

・オブラートどこ行つたw

くるみch・画狂くるみ☒ 今面倒くさいっていったああああああああああああ

ああああああああ

・きちやああああ

・ご本人降臨俺しーらね

・修羅場！ 修羅場！！！！

・いえーい卍見ってるー???

くるみch. 画狂くるみ☒ ぬあ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

『ひと様の配信でうるさい』

・容赦ねえ

・マジで面倒くさそうで草

・哀れ卍

・まあ卍だもんやしやーない

くるみch. 画狂くるみ☒ 卍言うなああツツツツツツ

まさか見ているうえにコメントしてくるとは思わなかった。にしても最初にあった頃と比べたら多少はメンタル治ってるのかなこれ。どうであれうるさいことにかわりはないけれども。

その後は画狂くるみが沈静化していく工程をネタにしつつ配信は終了。パソコンの電源を落として1階に下りればフィーがエプロンを付けてキッチンに立ってた。

「配信終わったんだ？ もうすぐお昼できるから座っててー」

「何回見てもフィーがエプロン付けてキッチン立ってる姿見慣れないんだけど」

エプロンを付けて手慣れた感じで器具を扱ってお昼を作ってるフィーの後ろ姿。部屋にこもってパソコンに向き合って作業してる姿なら見慣れてる分なんだか不思議。まあもうそろお昼できるらしいしそれまでTwitterでも見てみますか。

火猫りんね@ぶいちゅぶ3期生 @kabyourinne · 6分前 ∴

ママかほ写真貰った

可愛い!!!!!!

135!!! ?433 624

白雪氷花@ぶいちゅぶ3期生@sirayuki hyouka · 8分前 ∴

ママから可愛い写真貰いました、どうですか？

145 ?347 453

月城かぐや@かぐや姫@tukisiro kaguya · 8分前 ∴

ママさんから可愛らしい画像もろうたんやけど、どない？

あ、それと名字つけてみたんよ。運営さんにはなんもゆうてへんのやけど、ええやろ。

235 ?298 621

人魚姫@汐見マリ@ninnngyohime/shiomi marine · 10分

前  
…

ママから写真貰ったー。いいでしょー???

個体名つけろってコメント来たからつけてみたよー、運営には何も言っていない!!

155 ?254 465

姫神あまね@ぶいちゅーぶ3期生@!!!!@himegami\_ama\_ne · 11分前

:

ママからさいつつつこうに可愛い写真貰った! どう、可愛いでしょ!!!!

324 ?332 435

アルマリア@ぶいちゅーぶ3期生@almaria · 11分前 …

ママから可愛い写真貰ったすごい可愛い!!!! 爪とか一本一本ネイルが全部違うし

目元もキラキラですっごい可愛い!

342 ?542 489

「みんなツイートしてるねえ。喜んでもらえてるみたいだし描いた甲斐があったかな」

片手間というか文字通りに手休めで描いた3期生の絵を各自に送っておいたんだけど、どうやら好評なようで。手休めでこれを描いた時に描いてた本来の絵は私の配信の時に使う背景だったりする。



後は私の趣味で追加要素として描くだけ描いた3期生の下着のデザインと着用絵。何でも下着の色、もしくは今どんなパンツを履いてるか聞く伝統がV t u b e r 界にはあると聞いたので。それなら表に出るかどうかは特に考えずに描くしかないと思いついた。

ちやんとおとなしいタイプとドエロイタイプの2つ用意してるから大丈夫。

「昼ごはんできたけど何みてるの？」

「3期生のツイート見てる。描いた絵さつき送ったんだけどいい感じの反応」

「フィーが持ってきたのはカルボナーラ……え、フィーこれ作ってたの?? 家で作れたんだこれ……。」

「ほぼ混ぜるだけだし結構簡単に出来るよこれ」

「その手合いの簡単ってのは大体簡単じゃない奴だよ」

「実際に私がこれを作ったら失敗する未来が見える。ベシヤつとするか味が薄いかわいかで。」

ちなみにフィーが作ったカルボナーラは文句なしで美味しかった。

## 14 前日ミーティング

「日程ですが明日から順に1人ずつ配信をして頂いて、最終日はぶいちゅーぶ公式チャンネルで6人全員での配信の予定になっています」

ワールドクリエイイト内の3期生との顔合わせでも使われた会議室で始まったミーティング。オンラインでもよかったんだけど今回は渡すものもあるからと本社でのミーティング。

ミーティングとは言っても主題にかかわってくる3期生とマネージャーの朱音さんが手前の会議テーブルにいて私はソファに座ってるんだけど。

「配信予定時間は1人30分を目途に長くとも1時間ほどでお願いします」

「つまり最低でも30分は配信しろって事ね？」

「そうですね、デビュー配信になるので最低でも30分は欲しいです」

明日からのデビュー配信トップバッターのありさちゃんが元氣よく聞いているけど、負いとかしてる風に見えないしどっちかといえはいつでもかかってこいと言った感じにも見える。

「最低でも30分ですか」

「そない身構えへんでも30分なんてあっさり終わるさかいけるいける」

「ほ、ほんとですか??」

「でもまあ、配信バフとか取れ高の回とかあるときははるからねー。こればかりはやってみないと」

「なんで仲良く上げて落とすんですかああ……」

配信経験者組がさつきちゃんを上げて落としてる。まあ配信前準備やワールドクリエイト内のサーバーを使ったデモ配信もやってみたいだし、本番あるのみなのは確か。

「練習の通りにやれば大丈夫」

「エリサあ」

「それでも安心といえないのが配信だから頑張つて」

「エリサああつ」

そしてエリサちゃんも上げて落としてる。

「ディスプレイなどでいぎという時はフォロワーも入れるので大丈夫ですよ。練習通りに機材操作が出来ればそうそうに事故は起きないはずですので」

機材関連で問題なければあとは配信者側のやらかししかなさそうだしね。しかしなんだらうか、しよっぱなからなんだかやらかしそうな気もするんだけども。

その時はマネちゃんである朱音さんが対処するだろうからまあいいでしょう。

「ひとまず配信に関してはいったん置くとして、皆さんのチャンネルとTwitterのアカウントですね。Twitterに関しては各自が5万フォロワー越え、YouTubeチャンネルの登録者数も現段階で10万越えですね。10万人越えをしているので3D制作も着手しています」

1、2期生は登録者10万人を超えたあたりで3D作成に着手したらんですけど、3期生は現段階で10万を超えてるから着手事態はしてるらしい。

「3Dに関しては告知枠を別途設ける形になるのでおもしろし厳禁です」  
「もらしちやったらどうなるの?」

「炎上ですね」

「景気よう燃えるやろうね」

悲しいかなこの業界、アンチが沸きやすいもんだからすぐに燃えるらしい。瞬間湯沸かし器、ティファールののごとくすぐに嘔みついて延焼させる輩とかが。

単推し、厄介ガチ恋が揚げ足取りのごとく燃やしに来るは来るはで鎮火にも日数がかかって非常に面倒なんだとか。

炎上の単語を聞いてさつきちゃんが小鹿のごとく震えてるけど、まあ大丈夫でしょう。

「それと最後に、公式枠での3期生配信で発表する記念グッズですね。現品がこちらです  
すね」

そういつて朱音さんが足元の箱とかに置いてあつたつぽいグッズをテーブルの上に出した。

アクスタにラバーストラップ、缶バッジの3種類。アクスタには仕掛けをしてあつて、3期生全員揃えるとジオラマになる様になつてる。

そして見本という形で3期生全員にフルセットが配られた。

「はわああ、かわいいいいい」

「さつき、あんた顔すごい事なってるわよ」

「ほんとアシユリーの絵が好きだねえ」

さつきちゃん配られたフルセットを人様には見せれない顔で見てる……。女の子としてその顔はいかがなものか。

「今回はデビュー記念グッズということでアクスタとラバーストラップは単品可、缶バッジは6個セット販売のみで公式ショップでの販売になります。価格はアクスタが各1000円、ラバーストラップが各700円、缶バッジは1500円での販売予定です  
すね」

この販売価格についてもデザインを入稿した後に擦り合わせがあつただけど、アク

スタは一般的には15000〜30000が平均でラバーストラップは800前後、缶バツジは単品で12000前後というのを参考に今回の値段設定にしている。

デビュー記念グッズというのもあつて値段は抑えめに、という事らしい。特に缶バツジはセット15000円販売だからかなり抑えめ。そんなもつてフルセット購入特典としては箔押し複製で3期生のサインとミニメッセージがついてくる。

「転売対策として完全受注生産及びフリマサイトやオークションサイトでの転売業者、違法業者の締め出しですわね」

「締め出しですか、そんなことが出来るの？」

「情報開示で開示されたものを使えば出来ちゃうんですよ」

それ以外にも対策部署を設けてあれこれやつてるのも擦り合わせの時に聞いたんだけど、それを説明してる朱音さんが転売ヤーを何が何でも排除してやるっている執念が発してた。

「転売する連中つて頭に蛆沸いてるから訳の分かんない持論展開して正当性あるみたいな主張してくんのよね」

「ありさの所でもあるの？」

「悲しいことにね。まあ、大体はパパが雇つてる顧問弁護士が損害賠償吹っ掛けて潰してるんだけど」

化粧品とか限定のものもあるみたいだし転売やる奴はやるよね。

朱音さん曰く、転売対策を何一つ取らないフリマサイト、オークションサイトに対して企業合同での是正要求をする予定があるとは聞いた。うちみたいなV t u b e r 企業だけに限らず転売被害にあつてゐる企業合同といつてたからそれなりの規模でやるんだらうね。

「転売を生業にする輩が何を言おうと徹底的に潰す、というのが対策部門及び法務部の決定事項です。うちのタレントとファンの関係性を食いものにはさせないでの大丈夫ですよ」

おおお……朱音さんからどす黒いものが沸き上がつてゐる。1, 2期生あたりで転売がらみでなんかあつたのかな？

「転売に対して強いナニカを感じるわね……」

「まあ、あないな連中おらんくなつた方がええのは事実やし」

「んー……転売する人みんななくなつちやえつて事？」

「そーだよ凜転売する連中が偉そうに御託並べてべらべらと喋つてゐるけどやつてゐる事はゴミだし存在するのも烏滸がましい社会のゴミなんだよそんな連中の存在は許しちやいけなんだよだから消さなきゃ消さなきゃ消さなきゃ……」

さつきちゃんが怨念を放つ勢いで何やら言い出してるけどまあ……うん。凜ちゃん

が引いてるからやめようねー。

「とまあ色々脱線しましたが本日のミーティングはこれにて終了です、お疲れ様でした」